

平安京右京三条一坊十一町跡・壬生遺跡

2025年

公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

平安京右京三条一坊十一町跡・壬生遺跡

2025年

公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

序 文

京都市内には、いにしへの都平安京をはじめとして、数多くの埋蔵文化財包蔵地（遺跡）が点在しています。平安京以前にさかのぼる遺跡及び平安京建都以来、今日に至るまで営々と生活が営まれ、各時代の生活跡が連綿と重なりあっています。このように地中に埋もれた埋蔵文化財（遺跡）は、過去の京都の姿をうかびあがらせてくれます。

公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所は、遺跡の発掘調査をととして京都の歴史の解明に取り組んでいます。その調査成果を市民の皆様に広く公開し、活用していただけるよう努めていくことが責務と考えています。現地説明会の開催、写真展や遺跡めぐり、京都市考古資料館での展示公開、小中学校での出前授業、ホームページでの情報公開などを積極的に進めているところです。

このたび、中京区西ノ京東月光町開発計画に伴う平安京跡・壬生遺跡の発掘調査について調査成果を報告いたします。本報告の内容につきましてお気づきのことがございましたら、ご教示賜りますようお願い申し上げます。

末尾になりましたが、当調査に際しまして多くのご協力とご支援を賜りました関係各位に厚く感謝し、御礼を申し上げます。

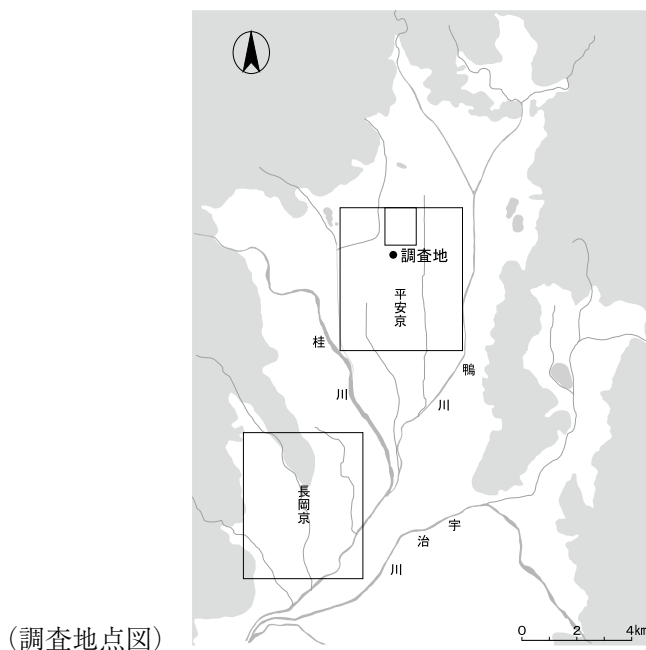
令和7年7月

公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

所 長 井 上 満 郎

例 言

- | | |
|-----------|---|
| 1 遺 跡 名 | 平安京跡・壬生遺跡（京都市番号 23 H 440） |
| 2 調査所在地 | 京都市中京区西ノ京東月光町22－13 |
| 3 委 託 者 | 築柴 誠 |
| 4 調 査 期 間 | 2024年9月24日～2024年11月15日 |
| 5 調 査 面 積 | 562㎡ |
| 6 調査担当者 | 西田倫子 |
| 7 使用地図 | 京都市発行の都市計画基本図（縮尺1：2,500）「壬生」を参考にし、作成した。 |
| 8 使用測地系 | 世界測地系 平面直角座標系Ⅵ（ただし、単位（m）を省略した） |
| 9 使用標高 | T.P.：東京湾平均海面高度 |
| 10 使用土色名 | 農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版 標準土色帖』に準じた。 |
| 11 遺構番号 | 通し番号を付し、遺構の種類を前に付けた。 |
| 12 遺物番号 | 通し番号を付し、写真番号も同一とした。 |
| 13 本書作成 | 西田倫子
付章：株式会社パレオ・ラボ |
| 14 備 考 | 上記以外に調査・整理ならびに本書作成には、調査業務職員及び資料業務職員があたった。 |



目 次

1. 調査経過	1
2. 位置と環境	3
3. 遺 構	8
(1) 基本層序	8
(2) 古墳時代の遺構	8
(3) 平安時代の遺構	9
(4) 江戸時代の遺構	10
4. 遺 物	11
(1) 土器類	11
(2) 瓦類	14
(3) 石製品	15
5. ま と め	16
付章 自然科学分析	18

図 版 目 次

図版 1	遺構	調査区平面図 (1 : 200)
図版 2	遺構	調査区南壁断面図 (1 : 80)
図版 3	遺構	調査区東壁断面図 (1 : 80)
図版 4	遺構	土坑 25 実測図 (1 : 20)、柱穴 134・柱穴 153・土坑 68 実測図 (1 : 40)、火山灰層断面図 (1 : 40)
図版 5	遺物	平安時代の土器実測図 (1 : 4)
図版 6	遺物	軒平瓦・丸瓦・平瓦拓影及び実測図 (1 : 4)
図版 7	遺構	1 調査区西半全景 (東から) 2 調査区東半全景 (西から)
図版 8	遺構	1 溝 114 及び包含層 173 (北西から) 2 溝 114 完掘状況 (北西から) 3 溝 114 北肩部土器出土状況 (北東から)
図版 9	遺構	1 土坑 25 土器出土状況 (西から) 2 土坑 25 断面 (南から)

図版10	遺構	1	整地層151軒平瓦出土状況（南西から）
		2	柱穴134土器出土状況（東から）
		3	柱穴153検出状況（南から）
		4	柱穴153文字瓦出土状況（南から）
図版11	遺構	1	基盤層傾斜状況（北から）
		2	火山灰層検出状況（北西から）
		3	火山灰層断面（北から）

挿 図 目 次

図1	調査位置図（1：2,500）	1
図2	調査区配置図（1：800）	2
図3	調査前全景（北東から）	2
図4	1区重機掘削状況（南東から）	2
図5	2区重機掘削状況（東から）	2
図6	作業状況（北から）	2
図7	周辺調査位置図（1：4,000）	3
図8	溝114・落ち込み166実測図（1：80）	9
図9	古墳時代の土器実測図（1：4）	12
図10	製塩土器実測図（1：4）	12
図11	文字瓦拓影及び実測図（1：4）	14
図12	石製品実測図（1：4）	15

表 目 次

表1	周辺調査一覧表	4
表2	遺構概要表	8
表3	遺物概要表	11

平安京右京三条一坊十一町跡・壬生遺跡

1. 調査経過

本調査は、京都市中京区西ノ京東月光町22-13の開発計画に伴うものである。調査地は、平安京右京三条一坊十一町跡と、壬生遺跡に該当する。工事に先立ち、京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課（以下「文化財保護課」という）が試掘調査を実施したところ、遺構が確認されたため、発掘調査の指導が行われ、公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所が委託を受けて調査を実施することとなった。

発掘調査区は、文化財保護課の指導により、西半は東西16m、南北21mの長方形、東半は東西12.5m、南北20.5mのL字形に設定した（図2）。また、調査区北側で遺構の有無の確認のため拡張区を2箇所設定した。調査面積は562㎡である。2024年9月24日に調査を開始した。調査は、基盤層上面で実施し、記録作業を行い、適宜文化財保護課及び検証委員梶川敏夫氏の検査指導を受けた。調査では、古墳時代の溝・落ち込み、平安時代の柱穴・土坑などを検出した。11月15日に全ての調査を終了した。

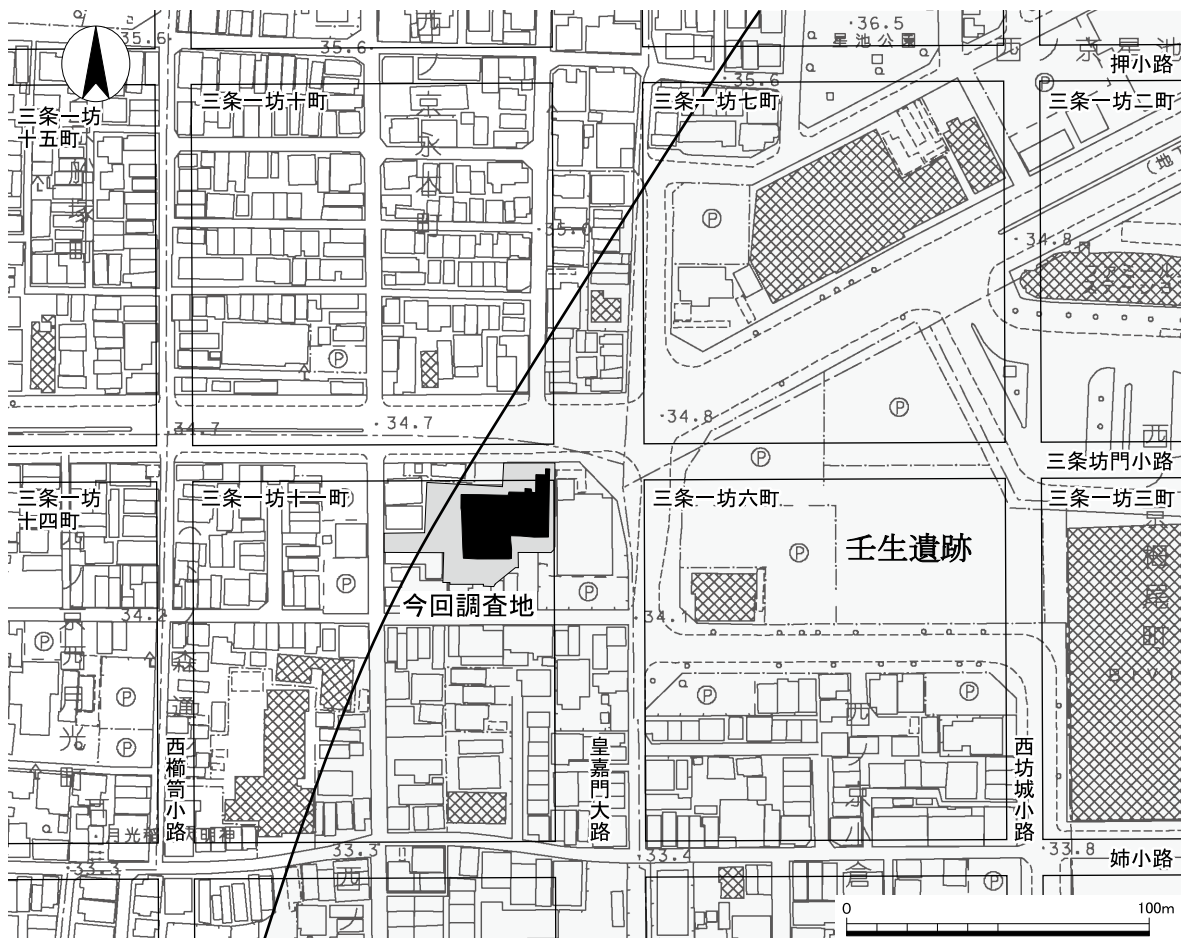


図1 調査位置図（1：2,500）

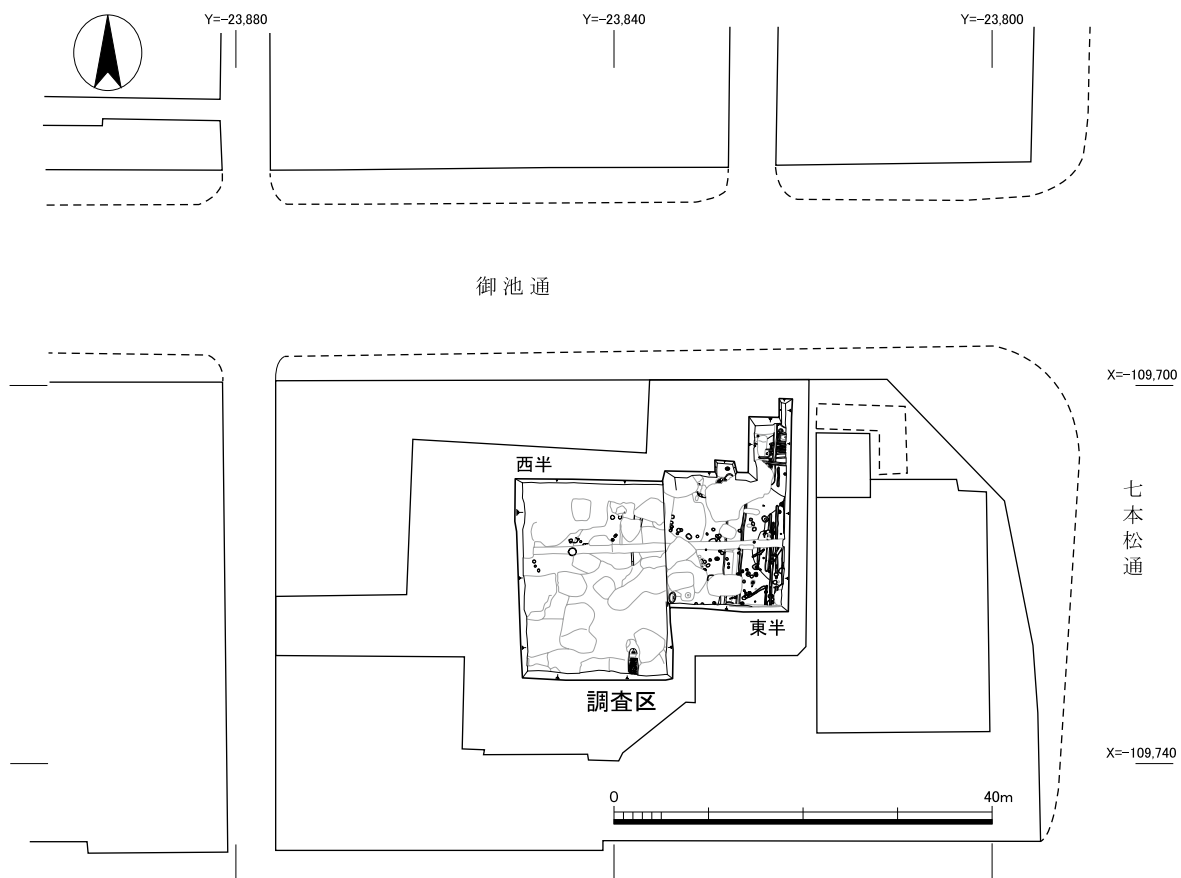


図2 調査区配置図 (1 : 800)



図3 調査前全景 (北東から)



図4 1区重機掘削状況 (南東から)



図5 2区重機掘削状況 (東から)



図6 作業状況 (北から)

2. 位置と環境

調査地は、壬生遺跡にあたり、天神川が形成した扇状地上に立地する。当遺跡は、弥生時代から古墳時代の遺物散布地であり、各時代の遺物や流路が見つかっている。

周辺調査でも、弥生時代の遺物が調査1・5・7～9・11～15・19・23～25・27・29～31・33・39・40で確認され、調査11・12・29では流路が見つかった。古墳時代の遺物は調査3・5・10・12～14・22・23・25・26・28・31・34・35・42・43・45で確認され、調査29では流路が見つかった。

平安京における調査地は、北側を三条坊門小路、東側を皇嘉門大路、南側を姉小路、西側を西櫛
 筒小路に画された平安京右京三条一坊十一町に位置する。三条坊門小路と皇嘉門大路に面した同
 町の北東部に当たり、四行八門制では東一行北一・二門に該当する。当町の居住者を示す史料上の
 記述はない。しかし、皇嘉門大路の東側で実施された調査29・30では、平安時代前期や後期の洲

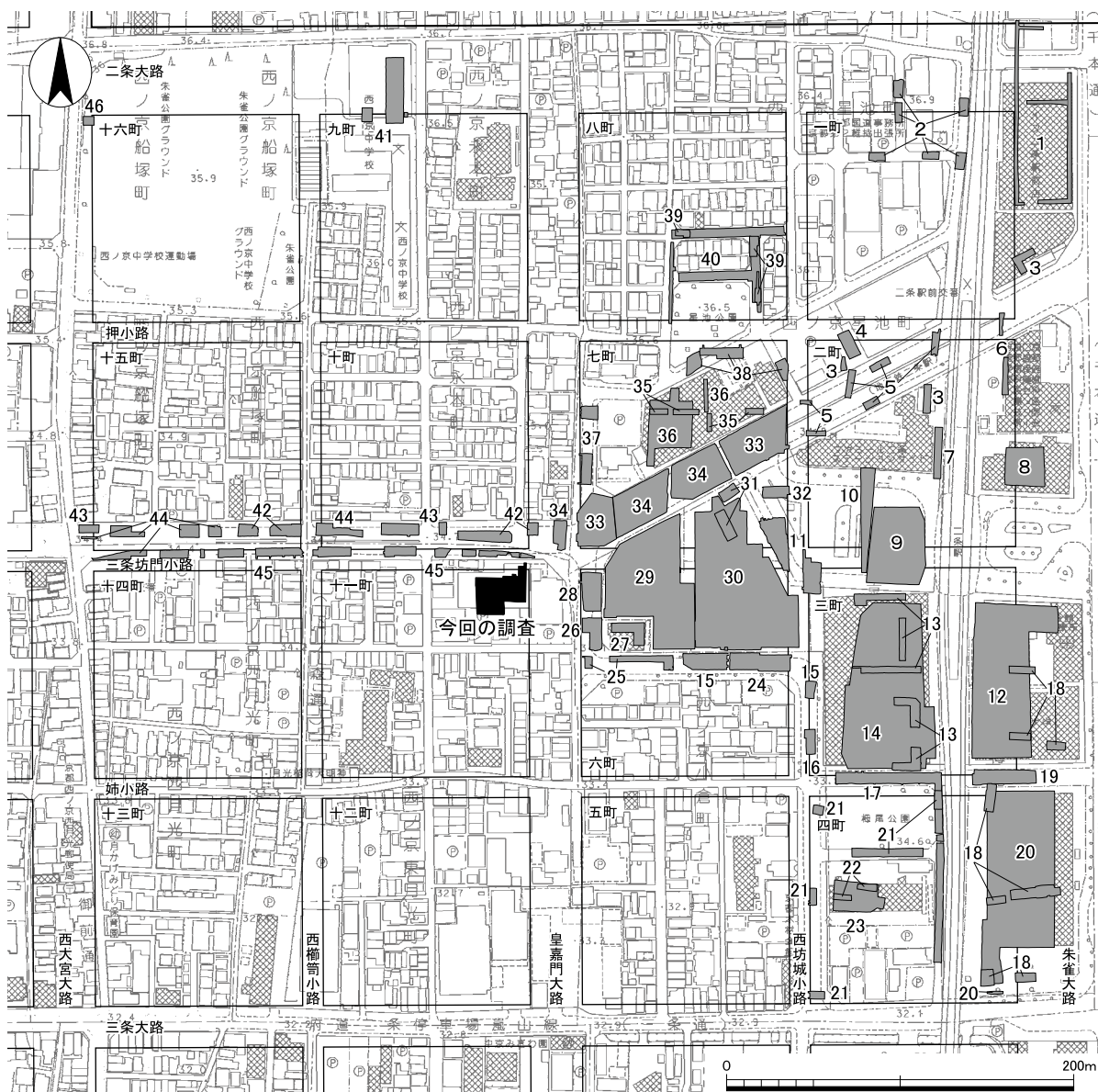


図7 周辺調査位置図（1：4,000）

表1 周辺調査一覧表

番号	遺跡名	調査方法	年度	所在地	主な遺構		主な遺物		文献
					古墳時代以前	平安時代	古墳時代以前	平安時代	
1	三条一坊一町、壬生遺跡	試掘	1984	西ノ京梅尾町(国鉄二条駅)	縄文時代:流路。地表下2～2.5mで火山灰層。	平安時代:流路。平安時代後期:瓦溜。	縄文時代晩期:縄文土器。弥生時代:弥生土器。古墳時代:土師器、須恵器。	平安時代:土師器、須恵器、白磁、軒丸瓦、軒平瓦、丸瓦、平瓦。	中村 敦「平安京右京三条一坊」『昭和59年度 京都市埋蔵文化財調査概要』
2	三条一坊一町	試掘	1993	西ノ京梅尾町地内		平安時代:堆積土硬化面(二条大路路面)。		平安時代:土師器、瓦。	平田 泰・伊藤潔「平安京右京三条一坊5」『平成5年度 京都市埋蔵文化財調査概要』
3	三条一坊一・二町	試掘	1995	西ノ京梅尾町地内		平安時代:溝、落込、整地層。	古墳時代:須恵器。	平安時代:土師器、須恵器、緑釉陶器、灰釉陶器、黒色土器、軒瓦、丸瓦、平瓦、鬼瓦(豊楽殿同范)、瓦器、白磁。	小檜山一良「平安京右京三条一坊1」『平成7年度 京都市埋蔵文化財調査概要』
4	三条一坊二町	発掘	2022	西ノ京星池町230番地他6筆				平安時代:須恵器、緑釉陶器、軒丸瓦、瓦。	『平安京右京三条一坊二町跡・壬生遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2022-8
5	三条一坊二町、壬生遺跡	試掘	1993	西ノ京梅尾町・星池町地内(東西線二条駅)	平安時代以前:流路。	平安時代:柱穴。平安時代中期:東西溝、柱穴。	縄文時代～弥生時代?:石器剥片。弥生時代:弥生土器。古墳時代:土師器、須恵器。	平安時代前期:土師器、須恵器、緑釉陶器、灰釉陶器、軒瓦、「右坊」丸瓦、緑釉瓦、凝灰岩片。平安時代中期:土師器、緑釉陶器、須恵器、「右坊」丸瓦。平安時代後期:土師器、瓦器、陶器、彩釉陶器、輸入陶磁器、瓦。	平田 泰「平安京右京三条一坊6」『平成5年度 京都市埋蔵文化財調査概要』
6	三条一坊一・二町	試掘	1989	西ノ京梅尾町JR西日本山陰本線		平安時代前期(9世紀前半):湿地状堆積。平安時代中期(10世紀前半):湿地状堆積。		平安時代前期:土師器、須恵器、瓦、輸入陶磁器(白磁)、凝灰岩。平安時代中期～後期:土師器、瓦器、瓦。	平田 泰「平安京右京三条一坊」『平成2年度 京都市埋蔵文化財調査概要』
7	三条一坊二町	発掘	1993	西ノ京梅尾町地内			弥生時代:弥生土器(中期)。	平安時代:須恵器、軒瓦、布目瓦。	吉村正親「平安京右京三条一坊1」『平成5年度 京都市埋蔵文化財調査概要』
8	三条一坊二町	発掘	2004	西ノ京梅尾町		平安時代前期:溝。平安時代末期～鎌倉時代:溝、湿地状遺構など。	弥生時代後期後葉:甕、壺、石包丁。	平安時代前期:土師器、須恵器、緑釉陶器、黒色土器、瓦、銭貨。平安時代末期～鎌倉時代初頭:土師器、須恵器、輸入青磁、白磁、瓦器、瓦、木製品、銭貨、人骨(頭蓋骨)。	『平安京右京三条一坊二町跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報 2004-6
9	三条一坊二町	発掘	1997	西ノ京星池町地内		平安時代前期:三条坊門小路北側溝。平安時代中期:三条坊門小路北側溝・路面・南側溝、柵列。平安時代後期:三条坊門小路北側溝・路面・南側溝、井戸。	縄文時代:有舌尖頭器(草創期)、石匙、石鏃。弥生時代:弥生土器。奈良時代:軒瓦(難波宮式、平城宮式)。	平安時代前期～中期:土師器、須恵器、緑釉陶器、灰釉陶器、輸入陶磁器、緑釉軒平瓦、軒平瓦、軒丸瓦、文字瓦(「右坊」「木工」)、瓦、柱根、杭、木製品、金属製品。平安時代後期:土師器、輸入陶磁器、瓦器、軒平瓦、軒丸瓦、瓦、漆器、井戸部材、下駄、獣骨。	伊藤 潔「平安京右京三条一坊1」『平成9年度 京都市埋蔵文化財調査概要』
10	三条一坊二・三町、壬生遺跡	発掘	1989	西ノ京梅尾町他(二条駅前)	平安時代以前:流路(北東から南西)。	平安時代前期:三条坊門小路南北両側溝、路面、北築地内溝、土塋、落込、流れ。平安時代後期:三条坊門小路北側溝・路面・北築地内溝、流路、土塋。	古墳時代:土師器。奈良時代:藤原宮式軒丸瓦。	平安時代前期:土師器、須恵器、黒色土器、緑釉陶器、灰釉陶器、白磁、青磁、軒丸瓦、軒平瓦、緑釉軒丸瓦(豊楽院同范)、丸瓦、平瓦(「右坊」含む)、円面硯、獣骨。平安時代後期:土師器、瓦器、東播系こね鉢、常滑甕、丸瓦、平瓦。	堀内明博「平安京右京三条一坊」『平成元年度 京都市埋蔵文化財調査概要』
11	三条一坊三・七町	発掘	2001	西ノ京星池町		平安時代:建物、三条坊門小路路面・北側溝・南側溝、溝、築地、瓦溜、土塋、柱穴。	弥生時代:弥生土器。奈良時代:平城宮式軒丸瓦、平城宮式軒平瓦。	平安時代前期:土師器、須恵器、黒色土器、緑釉陶器、灰釉陶器、製塩土器、輸入青磁瓦類、文字瓦(「右坊」「右坊小」・「(右)坊(小)」・「右坊常」・「(右)坊城」)、木簡・木製品、炭、種子。	『平安京右京三条一坊三・六・七町跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報 2002-5

番号	遺跡名	調査方法	年度	所在地	主な遺構		主な遺物		文献
					古墳時代以前	平安時代	古墳時代以前	平安時代	
12	三条一坊三町、壬生遺跡	発掘	2000	西ノ京梅尾町1-7他	弥生時代?～:北東から南西方向流路。火山灰二次堆積。	平安時代前期:建物、井戸、溝、柵、整地層、瓦落ち。 平安時代末期:建物、井戸、溝。	縄文時代:石鏃。 弥生時代:弥生土器。 古墳時代:須恵器。 奈良時代:平城宮式軒丸瓦、平城宮式軒平瓦。	平安時代:緑釉瓦、「栗」文字瓦。	『平安京右京三条一坊三町(右京職)跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報 2001-3
13	三条一坊三町	試掘	1994	西ノ京梅尾町地内		平安時代:柱穴、溝、ピット、地業、土壇。	弥生時代:弥生土器。 古墳時代:須恵器。 奈良時代:軒丸瓦、軒平瓦。	平安時代:土師器、須恵器、緑釉陶器、灰釉陶器、黒色土器、輸入陶磁器、瓦・緑釉瓦。	小檜山一良・小松武彦「平安京右京三条一坊1」『平成6年度京都市埋蔵文化財調査概要』
14	三条一坊三町、壬生遺跡	発掘	1996	西ノ京梅尾町地内	平安時代以前:自然流路。	平安時代前期:礎石建物、掘立柱建物、溝、井戸、落込、柱穴。 平安時代中期:溝。 平安時代後期:溝、柵列。	弥生時代:弥生土器(中期～後期)。 古墳時代:須恵器、石鏃。	平安時代:土師器、須恵器、黒色土器、緑釉陶器、灰釉陶器、輸入陶磁器、製塩陶器、軒平瓦、軒丸瓦、鬼瓦、緑釉丸瓦、平瓦、丸瓦、硯、土馬、土鍾、銭貨。	伊藤 潔「平安京右京三条一坊2」『平成9年度京都市埋蔵文化財調査概要』
15	三条一坊三・六町	発掘	1998	西ノ京小倉町他地内		平安時代:柱穴、溝、土壇。	弥生時代:弥生土器(中期)、石鏃。	平安時代:土師器、須恵器、緑釉陶器、灰釉陶器、瓦、軒丸瓦、柱根。	伊藤 潔「平安京右京三条一坊1」『平成10年度京都市埋蔵文化財調査概要』
16	三条一坊三町	発掘	2003	西ノ京梅尾町		平安時代:溝、築地、土壇、柱穴。	奈良時代:平城宮式軒平瓦	平安時代:土師器、黒色土器、須恵器、灰釉陶器、緑釉陶器、輸入白磁、青磁、軒平瓦、瓦類。	『平安京右京三条一坊三町跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報 2003-16
17	三条一坊三・四町	発掘	1994	西ノ京梅尾町地内		平安時代:姉小路北側溝、土壇、溝、ピット。		平安時代:土師器、緑釉陶器、灰釉陶器、黒色土器、瓦類。	吉村正親「平安京右京三条一坊」『平成6年度京都市埋蔵文化財調査概要』
18	三条一坊三・四町	試掘	1992	西ノ京梅尾町		平安時代:朱雀大路西側溝、姉小路南側溝、柱穴、土壇。		平安時代:土師器、須恵器、瓦器、灰釉陶器、緑釉陶器、白磁、瓦、黒色土器。	本 弥八郎「平安京右京三条一坊」『平成4年度京都市埋蔵文化財調査概要』
19	三条一坊三町	発掘	1996	西ノ京梅尾町地内	平安時代以前:流路、ピット。	平安時代中期:姉小路北側溝、掘立柱列。 平安時代後期～鎌倉時代:朱雀大路西側溝。	弥生時代:石包丁。	平安時代:土師器、須恵器、緑釉陶器、灰釉陶器、黒色土器、瓦器、青磁、白磁、瓦、銭貨。	高橋 潔「平安京右京三条一坊」『平成8年度京都市埋蔵文化財調査概要』
20	三条一坊	発掘	2004	西ノ京梅尾町1番7、2番10		平安時代前期:掘立柱建物、溝、石敷遺構。 平安時代後期:朱雀大路西側溝。 平安時代末期～鎌倉時代:朱雀大路西側溝、姉小路南側溝、棟門。	奈良時代:平城宮式軒平瓦。	平安時代前期:瓦、土師器、須恵器、黒色土器、緑釉陶器、灰釉陶器。 平安時代後期～鎌倉時代:土師器、瓦器、白磁、瓦、木製品。	『平安京右京三条一坊四町跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報 2004-16
21	三条一坊四町	試掘・発掘	1993	西ノ京梅尾町地内		平安時代:溝、落込状遺構、ピット、瓦多量に含む整地層。		平安時代:土師器、須恵器、緑釉陶器、灰釉陶器、黒色土器、瓦器、瓦類(緑釉軒丸瓦、「右坊」平瓦含)。	伊藤 潔「平安京右京三条一坊7」『平成5年度京都市埋蔵文化財調査概要』
22	三条一坊四町、壬生遺跡	試掘	1993	西ノ京梅尾町1-6他	縄文時代:旧流路?。	平安時代:池状遺構。	縄文時代後期:石器。 古墳時代:須恵器。	平安時代:土師器、須恵器、黒色土器、緑釉陶器、灰釉陶器、瓦類、漆器。	一覧表のみNo.10『平成5年度京都市埋蔵文化財調査概要』
23	三条一坊四町、壬生遺跡	発掘	1993	西ノ京梅尾町地内	平安時代以前:旧流路。	平安時代:池状遺構、掘立柱建物、柱穴、土壇。	弥生時代:弥生土器。 古墳時代:須恵器。 奈良時代:軒瓦。	平安時代:土師器、緑釉陶器、灰釉陶器、黒色土器、須恵器、白色土器、軒丸瓦、軒平瓦、平瓦、丸瓦、下駄、へら状木製品、刀子。	伊藤 潔「平安京右京三条一坊2」『平成5年度京都市埋蔵文化財調査概要』
24	三条一坊六町、壬生遺跡	発掘	2000	西ノ京小倉町他地内	弥生時代:自然流路。	平安時代:掘立柱建物、柵、柱穴、湿地。	弥生時代:弥生土器。	平安時代前期:土師器、須恵器、黒色土器、緑釉陶器、灰釉陶器、白磁、瓦、文字瓦「理」。	『平安京右京三条一坊三・六・七町跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報 2002-5
25	三条一坊六町	試掘	1995	西ノ京星池町地内		平安時代前期～中期:池。 平安時代後期:池。	弥生時代:弥生土器。 古墳時代:須恵器。 奈良時代:土師器、須恵器。	平安時代:土師器、須恵器、黒色土器、緑釉陶器、灰釉陶器、瓦器、瓦、下駄、曲物、箸、へら、不明加工木、獣骨。	伊藤 潔「平安京右京三条一坊2」『平成7年度京都市埋蔵文化財調査概要』

番号	遺跡名	調査方法	年度	所在地	主な遺構		主な遺物		文献
					古墳時代以前	平安時代	古墳時代以前	平安時代	
26	三条一坊六町	発掘	2001	西ノ京星池町39-1他		平安時代前期:池。 平安時代後期:ピット。	古墳時代:須恵器、土師器。 奈良時代:軒丸瓦、平城宮式軒平瓦。	平安時代前期～中期:土師器、須恵器、緑釉陶器、灰釉陶器、黒色土器、白色土器、青磁、白磁、墨書土器、瓦、「右坊口」文字瓦、土鍾、木製品、漆器、題箋、金属製品、植物遺体。 平安時代後期:土師器。	『平安京右京三条一坊三・六・七町跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報 2002-5
27	三条一坊六町	発掘	2008			平安時代前期:池、土坑、柱穴。	弥生時代:土器	平安時代前期～中期:土師器、須恵器、緑釉陶器、灰釉陶器、黒色土器、輸入陶磁器、土製品、石製品、金属製品、木製品、瓦。	『平安京右京三条一坊六町・壬生遺跡―西三条第(百花亭)跡―』古代文化調査会 2009年
28	三条一坊六町	発掘	2006	西ノ京小倉町地内		平安時代前期～中期初頭:土壇、柱穴群、柵列、掘立柱建物、柱穴列、整地土。	古墳時代:須恵器。 奈良時代:平城宮式軒平瓦。	平安時代:土師器、黒色土器、須恵器、緑釉陶器、灰釉陶器、瓦、緑釉熨斗瓦、軒瓦、製塩土器、柱根(檜)。	『平安京右京三条一坊六町跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2006-13
29	三条一坊六・七町、壬生遺跡	発掘	2019	西ノ京小倉町101、102、103、105	弥生～飛鳥時代:流路、高まり。	平安時代:掘立柱建物、柱列、柱穴、畦、土手状遺構、北築地、南築地、池、溝、土坑、土手状高まり、土器埋納遺構、集石、整地層、湿地状堆積、耕作土。	弥生時代～飛鳥時代:弥生土器、土師器。	平安時代:墨書土器、土師器、須恵器、黒色土器、瓦器、施釉陶器、輸入陶磁器、軒瓦、瓦、土製品、木簡、木製品、銭貨。	『平安京右京三条一坊六・七町跡、壬生遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2020-10
30	三条一坊六・七町、壬生遺跡	発掘	2011	西ノ京星池町17番59他	弥生・古墳時代:湿地状堆積。	平安時代前期:七町南内溝、西坊城小路西側溝、建物、柱列、井戸、溝、池、整地。 平安時代中期:三条坊門小路北側溝。 平安時代後期:三条坊門小路南側溝。	弥生時代:弥生土器。	平安時代前期:土師器、黒色土器、須恵器、緑釉陶器、灰釉陶器、輸入陶磁器、白色土器、土製品、石製品、木簡、木製品、銭貨・金属製品、鹿角製品、瓦類。 平安時代中期:土師器、黒色土器、須恵器、緑釉陶器。 平安時代後期:土師器、瓦器、陶器、輸入陶磁器、木製品、瓦類。	『平安京右京三条一坊六・七町跡―西三条第(百花亭)跡―』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2011-9
31	三条一坊七町	発掘	2002	西ノ京星池町39-1他		平安時代:池、東西溝、土壇。	弥生時代～古墳時代:斧形石製模造品、須恵器。 奈良時代:藤原宮式軒平瓦。	平安時代:土師器、緑釉陶器、須恵器、灰釉陶器、瓦、木製品。	『平安京右京三条一坊七町跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報 2002-1
32	三条一坊七町	発掘	2004	西ノ京星池町39		平安時代～中世:土壇、柱穴列、柱穴。		平安時代:土師器、黒色土器、須恵器、緑釉陶器、灰釉陶器、輸入白磁、青磁、軒丸瓦、瓦類。	『平安京右京三条一坊七町跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報 2004-3
33	三条一坊七町	発掘	1997	西ノ京星池町地内		平安時代前期:柵列、皇嘉門大路東側溝。 平安時代中期:柱穴、池、皇嘉門大路東側溝、柵列、溝。 平安時代後期:溝。	縄文時代:石鏃。 弥生時代:石包丁。 奈良時代:軒丸瓦、軒平瓦。	平安時代前期:土師器、須恵器、瓦、緑釉瓦。 平安時代中期:土師器、「右」平瓦。 平安時代後期:土師器、瓦。	吉村正親「平安京右京三条一坊4」『平成9年度 京都市埋蔵文化財調査概要』
34	三条一坊七町	発掘	1997	西ノ京星池町地内		平安時代前期:路面。 平安時代中期:路面、柵列、柱穴、池。 平安時代後期:池。	古墳時代前期:石鏃。 古墳時代中期:須恵器。 奈良時代後期:軒丸瓦、軒平瓦、「理」銘丸瓦。	平安時代前期:土師器、須恵器、黒色土器、緑釉陶器、灰釉陶器、緑釉瓦、緑釉丸瓦、「右坊」平瓦、「右」文字瓦。 平安時代中期:土師器、瓦。 平安時代後期:土師器、瓦。	吉村正親「平安京右京三条一坊4」『平成9年度 京都市埋蔵文化財調査概要』
35	三条一坊七町	試掘	1997	西ノ京星池町地内		平安時代前期:柱穴列、溝。 平安時代中期:柱穴列、土壇。 平安時代後期:流路、土壇。	古墳時代後期:須恵器。	平安時代前期:土師器、須恵器、瓦。 平安時代中期:土師器、須恵器、緑釉陶器、瓦。 平安時代後期:土師器、輸入白磁、瓦。	一覧表のみNo.11『平成9年度 京都市埋蔵文化財調査概要』
36	三条一坊七町	発掘	1997	西ノ京星池町地内		平安時代前期:建物、柱穴。 平安時代中期:柱穴、溝、池。 平安時代後期:井戸、池。		平安時代前期:土師器、須恵器、黒色土器、灰釉陶器、緑釉陶器、瓦。 平安時代中期:土師器、須恵器、緑釉陶器、瓦。 平安時代後期:土師器、瓦器、瓦、木枠。	平田 泰「平安京右京三条一坊3」『平成9年度 京都市埋蔵文化財調査概要』

番号	遺跡名	調査方法	年度	所在地	主な遺構		主な遺物		文献
					古墳時代以前	平安時代	古墳時代以前	平安時代	
37	三条一坊七町	試掘	1994	西ノ京星池町地内		平安時代前期(9世紀前半):溝、土壇、建物、柵、柱穴。		平安時代前期:土師器、須恵器、緑釉陶器、灰釉陶器、黒色土器、瓦、加工凝灰岩。	平田 泰「平安京右京三条一坊2」『平成6年度 京都市埋蔵文化財調査概要』
38	三条一坊七町	発掘	1993	西ノ京星池町地内		平安時代前期:柱穴。平安時代中期:建物4棟、柱穴、土壇、井戸、溝。平安時代後期:建物4棟、柱穴、溝。		平安時代前期:土師器、緑釉陶器、灰釉陶器。平安時代中期:土師器、緑釉陶器、瓦類。平安時代後期:土師器、瓦類。	平田 泰「平安京右京三条一坊3」『平成5年度 京都市埋蔵文化財調査概要』
39	三条一坊八町、壬生遺跡	試掘	1992	西ノ京星池町地内	弥生時代:溝。	平安時代:柱穴、遺物包含層。	弥生時代:弥生土器。	平安時代:土師器、須恵器、瓦。	一覧表のみNo.07『平成4年度 京都市埋蔵文化財調査概要』
40	三条一坊八町	発掘	1993	西ノ京星池町地内		平安時代:溝、掘立柱建物、土壇。	弥生時代:弥生土器。	平安時代:土師器、須恵器、緑釉陶器、瓦類。	伊藤 潔「平安京右京三条一坊4」『平成5年度 京都市埋蔵文化財調査概要』
41	三条一坊九町	発掘	1985	西ノ京永本町7-1(西ノ京中学校)		平安時代:二条大路南側溝。	奈良時代:瓦類。	平安時代:土師器、須恵器、緑釉陶器、灰釉陶器、軒丸瓦、軒平瓦、「右坊」銘平瓦。	加納敬二・辻 裕司「平安京右京三条一坊」『昭和60年度 京都市埋蔵文化財調査概要』
42	三条一坊十・十五町	発掘	1998	西ノ京永本町他地内		平安時代:溝、柱穴、土壇、路面。	古墳時代:土師器。	平安時代前期:土師器、須恵器、緑釉陶器、灰釉陶器、黒色土器、輸入陶磁器、緑釉丸瓦、軒瓦、文字瓦(「右坊城」・「右坊口」・「坊武」)、木製品、凝灰岩、銭貨。平安時代後期:土師器。平安時代後期～中世:土師器、白磁、青磁、施釉陶器、焼締陶器、瓦器、軒丸瓦。	伊藤 潔「平安京右京三条一坊2」『平成10年度 京都市埋蔵文化財調査概要』
43	三条一坊十・十五町	発掘	2001	西ノ京船塚町他地内		平安時代前期～中期前半:井戸、溝、建物、ピット、土壇、整地層。平安時代～中世:西大宮大路路面。	古墳時代:須恵器。奈良時代:軒平瓦。	平安時代前期～中期:土師器、須恵器、緑釉陶器、灰釉陶器、黒色土器、白色土器、青磁、白磁、瓦、軒瓦、緑釉瓦、石製品(石帯)、木製品、鷗尾片。	『平安京右京三条一坊十・十五町跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報 2001-2
44	三条一坊十・十五町	発掘	2000	西ノ京船塚町他地内		平安時代前期～中期:園池、柱穴、土壇、路面整地層。	奈良時代:瓦類。	平安時代前期～中期:土師器、須恵器、瓦器、灰釉陶器、緑釉陶器、黒色土器、墨書土器、瓦、凝灰岩、銭貨、動植物遺存体。	真喜志悦子・伊藤 潔「平安京右京三条一坊」『平成12年度 京都市埋蔵文化財調査概要』
45	三条一坊十・十五町	発掘	1999	西ノ京東月光町・西月光町		平安時代:溝、路面、暗渠、柱穴、土壇。	古墳時代:須恵器。奈良時代:軒瓦。	平安時代前期～中期:土師器、須恵器、黒色土器、緑釉陶器、灰釉陶器、輸入陶磁器、軒丸瓦、「右坊」文字瓦、緑釉丸瓦、木製品、石製品、凝灰岩、銭貨。	伊藤 潔「平安京右京三条一坊」『平成11年度 京都市埋蔵文化財調査概要』
46	三条一坊十六町	試掘	1986	西ノ京船塚町(朱雀公園内)				平安時代:土師器、須恵器、瓦類、輸入陶磁器。	小森俊寛「平安京右京三条一坊」『昭和61年度 京都市埋蔵文化財調査概要』

浜を伴う庭園遺構が検出されており、上流階層の居住が想定される。調査地は、調査29・30の隣接地で、平安時代前期や後期の遺構の検出が想定された。

また、調査地周辺では遺跡の基盤層の形成についての解析や自然科学分析が実施されている。調査30では基盤層となる扇状地性の氾濫原堆積物の下層、標高31.3m地点で始良Tn火山灰を確認したほか、基盤層砂礫層堆積物の放射線炭素年代測定では、砂礫層が縄文時代前期ごろまでの堆積であることが判明している。調査12では弥生や古墳時代の遺物が出土している流路の上面、標高34.5m地点で二次堆積と考えられる火山灰を確認している。

3. 遺 構

(1) 基本層序 (図版2～4)

調査地は、現状では現代盛土のためほぼ平坦になっており、標高は34.5～34.6mであるが、層序は西と東で異なっている。

調査区西側は、現地表面以下0.7～1.8mまでが現代盛土で、その下に約0.3mの厚さで耕作土が堆積する(図版2-南壁1～4層)。耕作土を除去すると黒褐色粘土や褐色粗砂などからなる基盤層となる(南壁14～16層)。

調査区東側は、現地表面以下0.7～0.8mまでが現代盛土で、その下に0.2～0.3mの厚さで耕作土が堆積する(図版3-東壁1・7・9層)。耕作土を除去するとX=-109,707からX=-109,716付近で平安時代前期の整地層150・151(東壁15～21層)が堆積する。また整地層150の下層では、厚さ0.04～0.16mの古墳時代包含層173が堆積する(東壁27層)。平安時代前期の整地層や古墳時代の包含層を除去すると黒色シルトや灰黄褐色粗砂などからなる基盤層となる(東壁30～33層)。また、調査区南東部で基盤層中、標高33.42m付近で火山灰層を確認した(図版4-火山灰層断面図5層)。火山灰層の詳細については付章で述べる。

基盤層上面の標高は33.5～33.7mである。北西から南東へと傾斜する。調査は基盤層上面と、平安時代の整地層が残存している東端部では平安時代整地層上面及び基盤層上面で行った。

以下に、各時期の主要な遺構について概説する。

(2) 古墳時代の遺構 (図8)

基盤層上面で検出した遺構群である。

溝114(図版8) 調査区北東隅で検出した。東西方向の溝である。検出長は約3.5mで、壁断面で確認した幅は0.8～1.0mある。検出面からの深さは0.16～0.2mで、溝底の標高は北西端が33.21m、南東端が33.18mで、南東が北西より低い。埋土は細砂ブロックと礫混じりの粗砂で肩部は粗砂混粘質シルト(図8-2・3層)である。古墳時代中期の遺物が出土した。

落ち込み166 調査区北東隅で検出した。東西約0.5m、南北約2.4m、深さは約0.08mある。壁はなだらかに立ち上がる。埋土は黒色の極細砂で、埋土から古墳時代中期の土器が出土した。

表2 遺構概要表

時 代	遺 構	備 考
古墳時代	溝114、落ち込み166、包含層173	
平安時代	柱穴134・153・156、土坑25・68、整地層150・151、落ち込み102	
江戸時代	溝108	

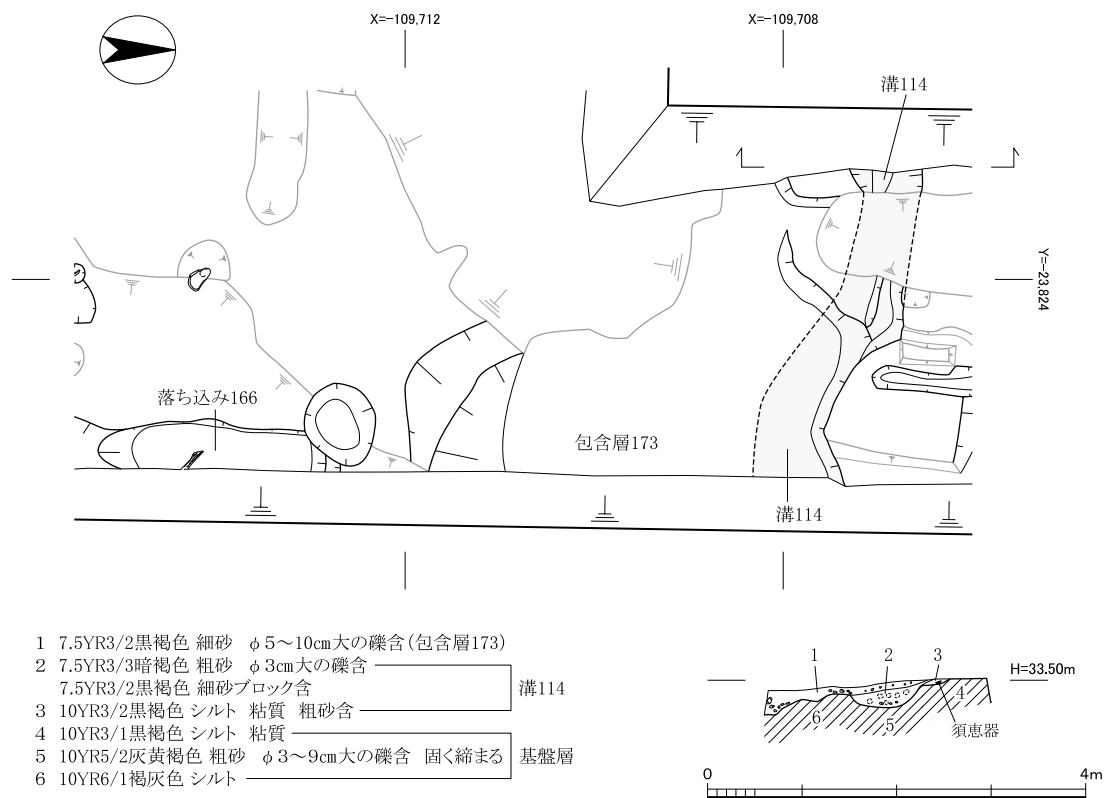


図8 溝114・落ち込み166実測図(1:80)

包含層173 調査区北東隅で検出した。検出した範囲は、東西約3.4m、南北約4.5mある。深さは最大で検出面から約0.18mある。溝114の上に堆積する。古墳時代後期の遺物が出土した。

(3) 平安時代の遺構(図版1・7)

基盤層上面または、部分的に確認できる整地層150・151(図版3-15~21層)の上面で検出した遺構群である。整地層150・151からは9世紀前半頃の遺物が出土した。複数の柱穴を検出したが、建物などのまとまりは確認できなかった。

柱穴134(図版4・10) 調査区中央東端で検出した。掘形の平面形は円形で、直径約0.4m、検出面からの深さは約0.34mある。掘形の南西部に径約0.2mの柱当たりを確認した。柱当たりの底から平瓦と木片が出土した。掘形埋土からは10世紀頃の土師器皿、須恵器甕、灰釉陶器、黑色土器、瓦片が出土した。

柱穴153(図版4・10) 調査区南東で検出した。掘形の平面形は隅丸方形で、東西約0.4m、南北約0.3m、検出面からの深さは約0.12mある。柱穴の底には、1個体の平瓦が割られて敷かれていた。掘形埋土からは10世紀頃の土師器皿、瓦片が出土した。

柱穴156 調査区南東隅で検出した。掘形の平面形は円形で、直径約0.2m、検出面からの深さは約0.07mある。柱穴の底には平瓦が敷かれていた。掘形埋土からは瓦片のみが出土した。

土坑25(図版4・9) 調査区北東部で検出した。東・西・南部は削平を受けており、平面形は不明である。検出長は、最長で南北約0.65m、東西約1.3mある。検出面からの深さは約0.15mあ

る。埋土から9世紀前半頃の土器がまとまって出土した。また炭片なども確認した。

土坑68（図版4） 調査区中央南端で検出した。平面形は楕円形で、長径約1.1m、短径は約0.7mある。検出面からの深さは約0.76mある。埋土から10世紀頃の土器がまとまって出土した。

整地層150 調査区東端北側で検出した。検出範囲は、東西約3.4m、南北約9mある。検出面からの深さは約0.16mある。埋土から9世紀前半頃の土器が出土した。

整地層151（図版10） 調査区東端南側で検出した。検出範囲は、東西約2.4m、南北約6.5mある。検出面からの深さは約0.12mある。埋土から9世紀前半頃の土器が出土した。

落ち込み102 調査区東端北側に位置する。北側は攪乱で削平される。東西約0.09m、南北約0.1m、深さは約0.16mある。埋土からは土師器皿・須恵器・灰釉陶器・緑釉陶器・瓦片・石製品が出土した。また、瓦片は6～10cm大の平瓦片が61点出土した。埋没年代は石製品の年代から12世紀初頭と考えられる。

（4）江戸時代の遺構（図版1）

溝108 調査区北東部で検出した。東西方向の溝である。検出長は約2.5mで、幅は0.3mある。検出面からの深さは0.16～0.2mある。溝底の標高は東端が33.492m、西端が33.466mで、西が東より低い。埋土は粗砂混じりのシルト（図版3－11層）である。埋土からは江戸時代の瓦片の他、平安時代の須恵器などが出土した。

4. 遺 物

調査では、整理コンテナにして24箱の遺物が出土した。出土遺物には土器・陶磁器類、瓦類、石製品などの種類がある。全体の約9割を土器・陶磁器類が占める。遺物の帰属時期は、古墳時代から平安時代、江戸時代のものがある（表3）。

古墳時代の遺物は、溝・落ち込み・包含層などから出土した。落ち込み166では古墳時代中期の土器にまじって古式土師器が1点出土した。器壁はあまり摩滅していない。また、製塩土器が6点出土している。

平安時代の遺物は、柱穴・土坑・整地層などから出土した。土師器・黒色土器・須恵器・緑釉陶器・灰釉陶器・輸入陶磁器などの土器類と、瓦類・石製品がある。土師器の器形は、杯・皿・碗・高杯・甕などがあり、黒色土器は、杯がある。須恵器は、杯・皿・鉢・壺・甕などがある。緑釉陶器と灰釉陶器は、碗・壺などがある。

以下では、時代の古いものから順に、遺物の概要を述べる。なお、古墳時代の須恵器の型式・年代観については田辺昭三氏の陶邑編年¹⁾、平安時代以降の土器の編年・年代観については平尾政幸氏の編年²⁾による。

（1）土器類

古墳時代の土器（図9・10）

落ち込み166出土土器（1） 古墳時代中期の土師器・須恵器が出土した。いずれも小片で図化できたのは1点のみである。1は古式土師器の布留式甕である。口縁部が内弯して立ち上がり、端部が肥厚する。体部外面はハケメをナデで消す。

溝114出土土器（2・3） 土師器・須恵器が出土した。いずれも小片で図化できたのは2点のみである。2は須恵器の杯身である。TK23～TK47型式に属するものとする。3は須恵器の甕である。頸部に櫛描波状文、体部に刺突文がある。火ぶくれが多くみられる。TK208型式に属する。

表3 遺物概要表

時 代	内 容	コンテナ 箱数	Aランク点数	Bランク 箱数	Cランク 箱数
古墳時代	土師器、須恵器、製塩土器		土師器1点、須恵器6点、製塩土器4点		
平安時代	土師器、黒色土器、須恵器、緑釉陶器、灰釉陶器、輸入陶磁器、瓦類、石製品		土師器18点、須恵器12点、緑釉陶器1点、灰釉陶器1点、輸入青磁1点、瓦6点、石製品1点		
江戸時代	土師器、施釉陶器、染付、瓦類				
合 計		33箱	51点（8箱）	1箱	24箱

※ コンテナ箱数の合計は、整理後、Aランクの遺物を抽出したため、出土時より9箱多くなっている。

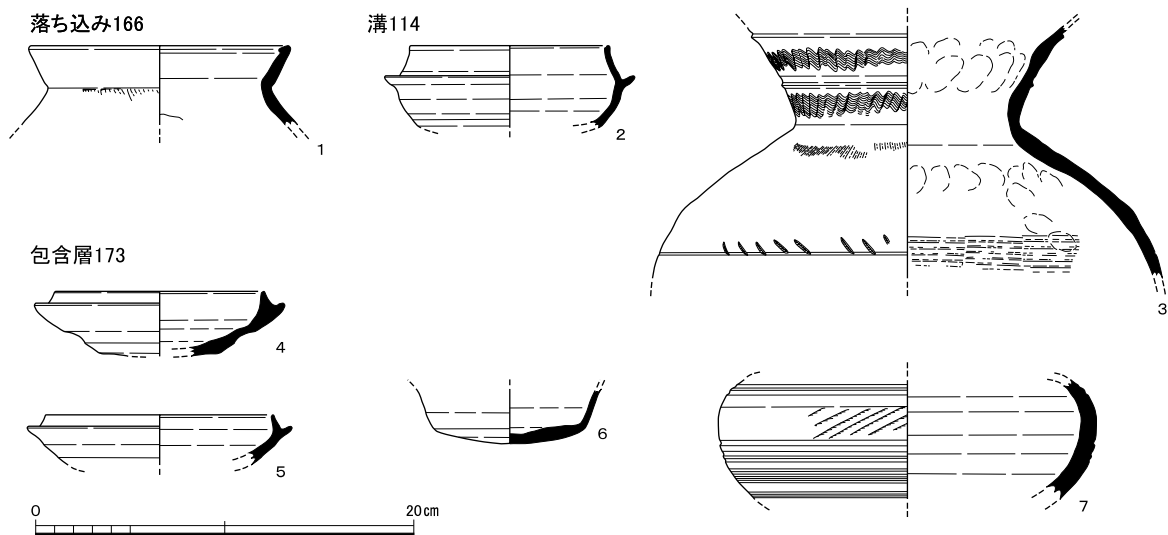


図9 古墳時代の土器実測図（1：4）

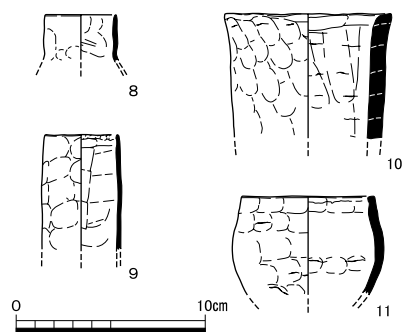


図10 製塩土器実測図（1：4）

包含層173出土土器（4～7） 土師器・須恵器が出土した。4～7は須恵器である。4～6は杯身。4・5はTK209型式、6はTK217型式に属する。7は甕の胴部である。沈線と沈線の間に櫛描の刺突文がある。6～7世紀に属する。

製塩土器（8～11） 古墳時代の遺構や平安時代の整地層から出土した製塩土器を一括して報告する。

溝114、包含層173、整地層150・151から6点出土した。

そのうち実測が可能であった、4点を図化した。8・9は溝114、10は整地層150、11は包含層173から出土した。5～6世紀に属する。8は器壁が約0.1cmと薄く、胎土に砂粒をほとんど含まず、内面は橙色、外面は黒褐色を呈する。丸底Ⅱ式³⁾と考えられる。9は器壁が約0.1～0.2cmと薄く、胎土に微砂粒を含み、灰白色を呈する。丸底Ⅱ式と考えられる。10は器壁が約0.7cmと厚く、胎土に0.2～0.3cmの砂粒を多く含み、灰白色を呈する。11は器壁が約0.2～0.4cmで、白色砂粒を多く含み、浅黄橙色を呈する。丸底Ⅰ式と考えられる。

平安時代の土器（図版5）

土坑25出土土器（12～27） 土師器皿・須恵器などが出土した。1B段階に属する資料である。

12・13は土師器の椀。口縁部は丸くおさめる。内面はナデ調整、外面はヘラケズリ。14・15は土師器の杯。体部はやや丸みを持って外上方へ開き、口縁端部はつまみ上げられる。内面ナデ調整。外面ヘラケズリ。14は底部付近には煤が付着し、被熱のため、器壁が剥離している。16・17は土師器の皿。口縁部は緩やかに立ち上がり、端部はつまみ上げられる。内面ナデ調整、外面ヘラケズリ。18・19は土師器の杯B。体部は外上方に広がり、口縁端部はつまみ上げられ、内面に肥厚する。高台は貼り付け。底部内面から口縁端部までナデ調整。外部はヘラケズリのちやや粗く磨く。18は外面に赤泥が塗られる。20・21は土師器の皿B。口縁端部はつまみ上げられ、内面に肥厚す

る。高台は貼り付け。内外面ナデ調整。22は土師器の甕。体部は内傾して立ち上がり、頸部でくの字状に外方へ折れ曲がる。口縁端部は内側へ折り返され肥厚する。摩滅しており調整は不明瞭。体部外面胴部にタタキの痕跡がみられる。

23は須恵器の杯B。底部に断面台形の高台がつく。高台は貼り付け。24は須恵器の皿A。体部は広く平坦な底部からまっすぐ外上方に開く。口縁端部は外傾する面をなす。底部外面ヘラオコシ痕。25は須恵器の鉢。肩が張った体部に短く外上方に伸びる口縁部が付く。26は須恵器の甕。口頸部は外反し、端部は面をもつ。体部外面にタタキ。内面に当て具痕跡がみられる。27は須恵器の杯Bの底部を利用した転用硯である。体部と底部の境目で丁寧に打ち欠く。底部外面には墨が付着している。高台内には使用痕跡があり滑らかになる。

整地層151出土土器（28～31） 土師器・黒色土器・須恵器・輸入陶磁器（越州窯青磁）などが出土した。1B段階に属する資料である。

28は土師器の椀である。体部は外上方に広がり、口縁端部はつまみ上げられる。29・30は土師器の皿である。体部は外上方に広がり、口縁端部はつまみ上げられ、内面が肥厚する。31は須恵器の杯B。体部は外上方に広がる。底部に断面台形の高台がつく。高台は貼り付け。

整地層150出土土器（32・33） 土師器・黒色土器・須恵器などが出土した。1B段階に属する資料である。32は土師器の杯。内面に放射状の暗文が見られる。内面に暗文が施される特徴から河内系と考えられる。33は須恵器の鉢。肩が張った体部に短く外上方に伸びる口縁部が付く。

溝108出土土器（34） 江戸時代の溝から出土した。京内では出土例の少ない須恵器であるため報告する。34は須恵器の凸帯付耳瓶である。凸帯と耳がある。耳には穿孔がみられる。上越地方で作られる凸帯付耳瓶と似る。

柱穴134出土土器（35） 土師器・黒色土器・須恵器・灰釉陶器などが出土した。3A段階に属する資料である。35は須恵器の甕。焼成不良。

落ち込み102出土土器（36） 土師器・須恵器・灰釉陶器・緑釉陶器などが出土した。36は須恵器の鉢。3B段階に属する。

土坑68出土土器（37～44） 土師器・黒色土器・須恵器・灰釉陶器・緑釉陶器・輸入陶磁器などが出土した。3A段階に属する資料である。37～39は土師器の皿。非常に薄く作られ、口縁の屈曲は強く端部は小さくつまみ上げている。40は須恵器の蓋。天井部の中心に宝珠形のつまみが付く。41は須恵器の壺。口縁部はまっすぐに立ち上がる。口縁部から肩部外面に釉がかかる。42は緑釉陶器の椀。口縁部にヘラによる輪花を施す。胎土は硬質。43は灰釉陶器の椀。44は輸入陶磁器青磁の椀。越州窯。高台は削り出し。体部と高台の境が明瞭。見込みと体部の境に沈線をもつ。見込みには線状の細長い目跡がある。

(2) 瓦類 (図版6、図11)

軒瓦 (瓦1) 軒平瓦が1点出土した。瓦1は奈良時代の重郭文軒平瓦である。胎土は緻密で焼成は堅緻である。顎は直顎で、顎部に朱がみられる。瓦当上下面、側面全てヘラケズリする。瓦当裏面は粗い指ナデで、胎土は粗く焼成は堅緻である。整地層151から出土した。

丸瓦・平瓦 (瓦2～5) 瓦2・3は丸瓦である。瓦2は緑釉瓦である。凸面はナデで仕上げるものの一部縄タタキが残る、凹面は布目が明瞭に残る。凸面と側面には緑釉がかけられている。緑釉は濃緑色で鮮やかに発色する。重機掘削中に土坑25直上から出土した。瓦3の凸面はナデ調整であるが一部タタキ痕がみられる。凹面には布目が明瞭に残る。凹面、凸面ともに自然釉がかかる。また粘土紐の痕跡がみられる。土坑68から出土した。

瓦4・5は平瓦である。瓦4は長さ36.7cm、幅24.7cmある。胎土に礫を多く含む。整地層151から出土した。瓦5の凸面は斜格子タタキ。凹面は布目が残る。土坑25の西に隣接する攪乱から出土した。

文字瓦 (瓦6) 瓦6は平瓦で、刻印がみられる。凹面側に「右坊」の陰刻の刻印と「右」・「常」の陽刻の刻印がみられる。柱穴153から出土した。

その他、土坑25の西に隣接する攪乱から文字瓦が1点出土した。小片のため刻印の文字は解読できない。

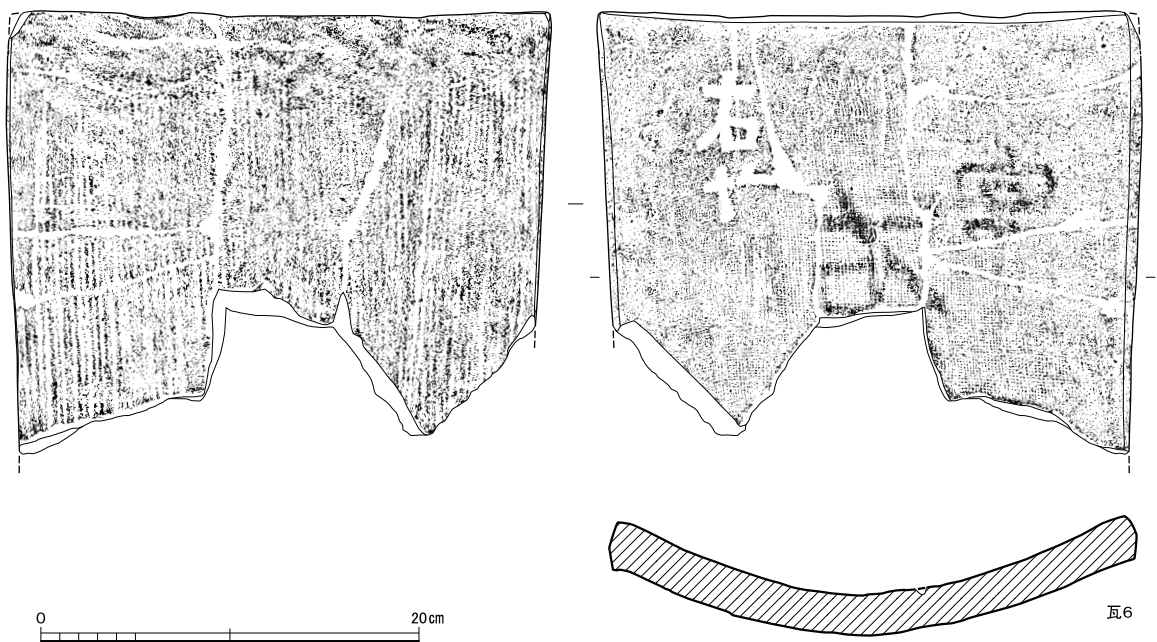


図11 文字瓦拓影及び実測図 (1 : 4)

(3) 石製品 (図12)

滑石製の石鍋が1点出土した。石1は石鍋の口縁部である。口径の復元径17.4cm、鋳径の復元径22.4cm。鋳の外端は垂直な面をもち、断面が台形を呈する。外面に幅広のノミ痕が残る。外面には煤が付着する。落ち込み102から出土した。12世紀頃に属する。

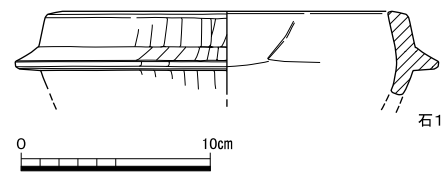


図12 石製品実測図 (1 : 4)

註

- 1) 田辺昭三『須恵器大成』 角川書店 1981年に拠った。
- 2) 土器の型式・年代については、平尾政幸「土師器再考」『洛史 研究紀要 第12号』 公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2020年に準拠する。

750年	840年	930年	1020年	1110年	1170年	1260年	1350年	1410年	1500年	1590年	1680年	1740年	1800年	1860年
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	
A B C	A B C	A B C	A B C	A B C	A B C	A B C	A B C	A B C	A B C	A B C	A B C	A B C	A B C	A B C

- 3) 小池 寛「古墳時代中期における製塩土器研究の現状と課題」『京都府埋蔵文化財情報 第86号』 財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター 2002年

5. ま と め

今回の調査では、1面2時期の調査を行い、古墳時代と平安時代の遺構を検出した。なお、今回調査地北側の三条坊門小路及び東側の皇嘉門大路に伴う遺構は確認できなかった。

調査地の地形面は、河角龍典氏の地形発達史的研究によると、更新世に離水および段丘化した扇状地面である段丘面Ⅱである。¹⁾地山は西から東に緩やかに傾斜している。平安京内では、皇嘉門大路の西側にあたる。

遺構の変遷

古墳時代の遺構は、古墳時代中期の土器が出土した溝114がある。調査地は壬生遺跡にあたり、周辺調査では弥生時代から古墳時代の遺物や、古墳時代の流路なども確認されている。溝114から出土した土器はあまり摩滅していないことから、生活空間が近接地に広がっていたとも考えられ、今後、周辺地の古墳時代の土地利用について考える上で貴重な成果といえよう。

平安時代の遺構としては、特に土坑25があげられる。当遺構からは平安時代初頭の土器が多量に出土した。平安京内で、この時期の土器のまとまった出土例は少なく貴重な資料となろう。

調査区東端でも、9世紀前半の土器を含む整地層150・151を確認した。土坑25と合わせて考えれば、平安京造営後間もなく土地が利用されていたことがわかる。また、柱穴134や土坑68などから10世紀の土器が出土しており、この頃までは宅地として利用がなされていたと考えられる。ただし今回の調査では、10世紀以降の遺物はほとんど確認していない。右京全体の衰退と軌を一にしているとみられる。

火山灰層

前述したとおり、本調査地の地形面は段丘面Ⅱである。今回の調査で、標高33.4m付近で火山灰層を確認した。火山灰層は、基盤層である3～8cmの礫を含む褐灰色の細砂～粗砂層（砂礫層）の上に堆積する、極細砂含む黒褐色粘土層の上面で確認した（図版4・火山灰層断面図）。付章で示す通り、検出した火山灰は自然科学分析の結果、鬼海アカホヤ火山灰（約7,300年前）と断定された。調査30では、基盤砂礫層の放射性炭素年代測定による基盤堆積物形成年代の分析を実施しており、砂礫層が縄文時代前期頃までの堆積であることが判明した。調査地付近では縄文時代前期頃にはすでに土地が安定したと考えられる。²⁾本調査で確認した砂礫層の堆積年代については不明であり、調査30で確認している砂礫層とは時期が異なると考えられる。

調査地周辺の地形と平安時代前期の園池形成について

地山の標高を確認すると本調査地は33.4～33.6m、調査29は32.6～33.2m、調査30は33.1～33.7mである。本調査地と調査29では約0.4～0.8m差があり、調査29と調査30では約0.5m差がある。これらの調査の中で、調査29が最も低く、東西両側より低く窪んだ地形であったことがわかる。

調査29の報告で、辻 康男氏は河角龍典氏が作成した地形図を基に、基盤層の詳細な分析を行っている。³⁾辻氏が提示した調査地周辺の地形学図によれば、本調査地及び調査29・30は旧河道にあたっている。これらの調査地間の地山の標高差は、旧河道の形成時期が現段階で不明なものの、旧

地形を一定反映していると考えられる。このように調査29は旧河道を反映した標高が低い場所にあり、かつ天神川が形成した扇状地の扇端に近い場所に位置する点から、水が集まりやすい環境にあったといえる。以上の点から、右京三条一坊六町跡の藤原良相邸（調査29）で確認した平安時代前期の園池を形成するのに適した場所であったと考えられる。

註

- 1) 河角龍典「歴史時代における京都の洪水と氾濫原の地形変化－遺跡に記録された災害情報を用いた水害史の再構築－」『京都歴史災害研究』1 2004年
- 2) パリノ・サーヴェイ株式会社「付章1 自然科学分析」『平安京右京三条一坊六・七町跡、－西三条第（百花亭）跡－』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2011－9 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2013年
- 3) 森 将志・辻 康男「付章 自然科学分析」『平安京右京三条一坊六・七町跡、壬生遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2020－10 公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2021年

付章 自然科学分析

株式会社パレオ・ラボ

(1) 火山灰層の分析

1) はじめに

京都市中京区西ノ京東月光町に所在する発掘調査地より採取された試料について、テフラを検討するために重軽鉱物分析、火山ガラスの形態、火山ガラスの電子顕微鏡付属エネルギー分散型X線アナライザー分析（以下、SEM-EDS分析）を行った。

表1 分析試料とその特徴

分析No.	試料の特徴	予想テフラ
1	褐色(7.5YR 4/2)、シルト質テフラ	始良Tnテフラ(AT) または 鬼界アカホヤテフラ(K-Ah)

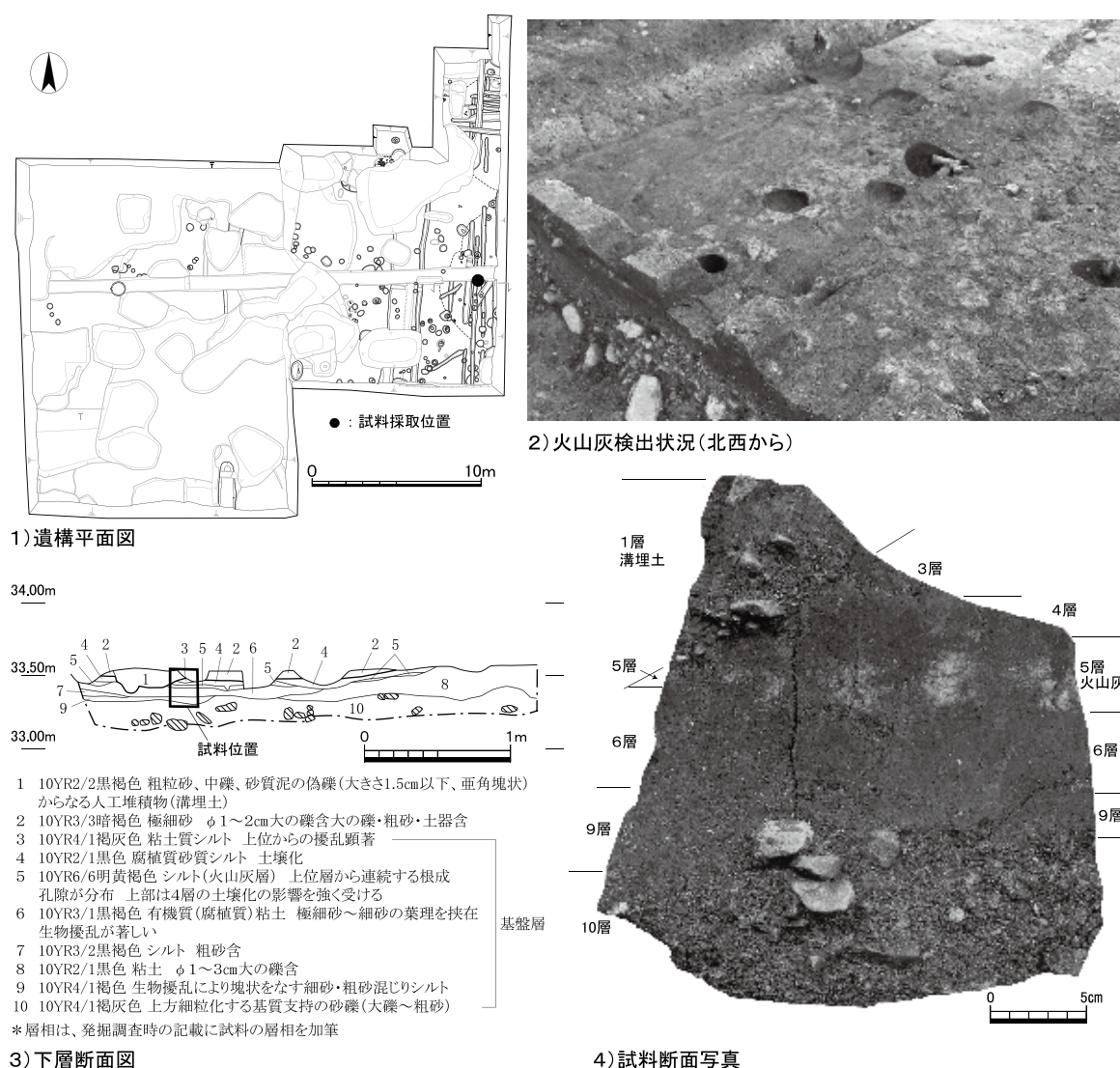


図1 試料採取地点

2) 試料と方法

分析試料は、東月光町発掘調査地の下層断面5層から採取された1点(分析No.1)である(表1、図1・5)。

試料は、適量を秤量した後、1φ(0.5mm)、2φ(0.25mm)、3φ(0.125mm)、4φ(0.063mm)の4枚の篩を重ね、湿式篩分けをした。4φ篩残渣について、重液(テトラブromoエタン、比重2.96)を用いて重鉱物と軽鉱物に分離した。軽鉱物及び重鉱物は、ガムクロラルを用いてプレパラートを作製した。軽鉱物は、町田・新井(2003)の火山ガラスの分類基準に従って、バブル型平板状(b1)、バブル型Y字状(b2)、軽石型繊維状(p1)、軽石型スポンジ状(p2)、急冷破碎型フレーク状(c1)、急冷破碎型塊状(c2)に分類した。重鉱物は、斜方輝石(opx)、単斜輝石(cpx)、角閃石(ho)、磁鉄鉱(mg)、不明(opq)等を同定・計数した。

SEM-EDS分析用の測定試料は、直径10mm、深さ2mm程度のPP容器に入れ、エポキシ樹脂(デブコンET)で固化し、鉱物用プレパラートに貼り付けた。精密岩石薄片作製機(ストルアス株式会社製、ディスコプラン-TS)を用いて平坦面(厚さ約350μm)を作製した。プレパラートは、研磨フィルム(三共理化学株式会社製、#1000, #2000, #4000)を用いて研磨した後、振動研磨機(ヴァーダー・サイエンティフィック株式会社製QPOL VIBRO; 0.06μmのAl₂O₃ゾルーゲル懸濁液を使用)を用いて6時間で琢磨した。作製したプレパラートは、カーボンコーター(メイワフォーシス株式会社製CADE)を用いて炭素蒸着を行った。蒸着は、炭素繊維(純度99.995%)を使用し、試料と蒸着源との距離65mm、真空度が1.5Paで設定して、炭素の膜厚10nmで蒸着した。

測定は、エネルギー分散型X線分析装置(日本電子株式会社製JSM-IT200(LV)+オックスフォード・インストゥルメンツ株式会社製AZtecOneシステム)を使用した。測定条件は、加速電圧20kV、照射電流Std.-68前後、デットタイム30%以上で測定、ワークディスタンス(WD)が10mm、X線取り出し角度34度、測定時間オート(300,000カウント収集)である。

測定は、コア中のテフラは平滑面の良いガラス片について20片を測定し、スタンダードレス定量(XPP定量補正法)を行った。

測定元素は、Na₂O、MgO、Al₂O₃、SiO₂、P₂O₅、K₂O、CaO、TiO₂、MnO、FeOの10元素である。

なお、適正な測定であることを確認するために、始良Tnテフラ(AT:30ka、PLDT-1)の火山

表2 テフラ試料の湿式篩分け・重液分離の結果

分析No.	処理重量(g)	篩分け(重量g)				軽・重鉱物組成(重量g)	
		1φ	2φ	3φ	4φ	軽鉱物	重鉱物
1	5.15	0.01	0.00	0.19	0.54	0.14	0.02

表3 4φ篩残渣中の鉱物組成

分析 No.	軽鉱物										重鉱物						
	石英 (qu)	長石 (pl)	不明 (opq)	火山ガラス						ガラス 合計	軽鉱物 合計	斜方輝石 (opx)	単斜輝石 (cpx)	角閃石 (ho)	磁鉄鉱 (mg)	不明 (opq)	重鉱物 の合計
				バブル(泡)型		軽石型		急冷破砕型									
				平板状 (b1)	Y字状 (b2)	繊維状 (p1)	スポンジ'状 (p2)	フレーク状 (c1)	塊状 (c2)								
1	-	2	-	195	53	-	-	-	-	248	250	102	71	-	61	16	250

表4 火山ガラスのSEM-EDS分析結果 (単位：重量%)

分析No.	元素	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	最小値	最大値	平均値	1σ	
1	Na ₂ O	4.59	4.25	4.53	4.43	4.42	4.55	4.08	4.27	4.35	4.59	4.42	4.51	4.44	4.50	4.48	4.52	4.53	4.50	4.39	4.49	4.08	4.59	4.44	0.13	
	MgO	0.57	0.47	0.79	0.49	0.43	0.41	0.37	0.40	0.43	0.50	0.49	0.47	0.41	0.39	0.47	0.46	0.43	0.45	0.47	0.44	0.37	0.79	0.47	0.09	
	Al ₂ O ₃	13.55	13.12	14.16	13.22	13.32	13.07	13.22	13.34	13.06	13.16	13.24	13.30	13.15	13.16	13.17	13.16	13.13	13.12	12.95	13.01	12.95	14.16	13.23	0.25	
	SiO ₂	73.12	74.34	70.43	74.20	74.08	74.17	74.61	74.01	74.15	74.13	74.20	74.01	74.14	73.98	74.00	74.29	74.30	74.10	74.36	74.16	70.43	74.61	73.94	0.87	
	P ₂ O ₅	0.00	0.00	0.20	0.00	0.00	0.02	0.00	0.08	0.02	0.00	0.16	0.00	0.05	0.04	0.06	0.00	0.00	0.11	0.00	0.07	0.00	0.20	0.04	0.06	
	K ₂ O	2.56	2.79	2.28	2.66	2.72	2.73	2.85	2.83	2.78	2.68	2.70	2.77	2.82	2.82	2.73	2.78	2.76	2.72	2.79	2.71	2.28	2.85	2.72	0.12	
	CaO	2.25	1.85	3.09	1.90	1.94	1.94	1.92	1.90	2.07	1.79	1.93	1.95	1.91	1.86	1.91	1.82	1.88	1.91	2.03	1.90	1.79	3.09	1.99	0.28	
	TiO ₂	0.63	0.48	0.73	0.57	0.64	0.52	0.47	0.55	0.53	0.58	0.52	0.54	0.53	0.58	0.62	0.57	0.49	0.56	0.56	0.56	0.47	0.73	0.56	0.06	
	MnO	0.12	0.14	0.12	0.00	0.04	0.09	0.01	0.13	0.09	0.12	0.00	0.09	0.10	0.13	0.06	0.06	0.09	0.09	0.12	0.10	0.00	0.14	0.09	0.04	
	FeO	2.62	2.56	3.66	2.53	2.42	2.50	2.47	2.50	2.51	2.46	2.35	2.36	2.46	2.55	2.50	2.33	2.38	2.44	2.34	2.55	2.33	3.66	2.52	0.28	
	Total	100.01	100.00	99.99	100.00	100.01	100.00	100.00	100.01	99.99	100.01	100.01	100.00	100.01	100.01	100.00	99.99	99.99	100.00	100.01	100.00	99.99	100.00	99.99	100.00	
分析No.	元素	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	最小値	最大値	平均値	1σ	
AT (PLDT-1)	Na ₂ O	3.88	3.46	3.96	3.77	3.98	3.86	3.78	3.96	3.68	3.57	3.77	3.82	3.83	3.86	3.98	3.79	3.41	3.81	3.61	3.86	3.41	3.98	3.78	0.16	
	MgO	0.02	0.09	0.08	0.08	0.07	0.06	0.11	0.05	0.07	0.15	0.04	0.04	0.20	0.07	0.06	0.09	0.00	0.13	0.03	0.04	0.00	0.20	0.07	0.05	
	Al ₂ O ₃	12.49	12.43	12.45	12.45	12.48	12.38	12.31	12.49	12.30	12.49	12.66	12.54	12.59	12.42	12.46	12.61	12.51	12.58	12.43	12.24	12.24	12.66	12.47	0.11	
	SiO ₂	77.74	78.24	77.82	77.80	77.60	77.60	77.99	77.67	78.11	77.86	77.58	77.94	77.45	77.95	77.57	77.69	78.09	77.69	77.82	77.93	77.45	78.24	77.81	0.21	
	P ₂ O ₅	0.02	0.09	0.06	0.00	0.00	0.03	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.02	0.00	0.01	0.07	0.00	0.00	0.02	0.00	0.09	0.02	0.03	
	K ₂ O	3.25	3.25	3.15	3.37	3.41	3.38	3.27	3.35	3.05	3.32	3.42	3.28	3.39	3.30	3.28	3.34	3.20	3.16	3.42	3.31	3.05	3.42	3.30	0.10	
	CaO	1.18	1.10	1.11	1.18	1.07	1.06	1.14	0.99	1.14	1.05	1.15	1.05	1.09	1.05	1.04	1.08	1.19	1.24	1.13	1.17	0.99	1.24	1.11	0.06	
	TiO ₂	0.14	0.05	0.13	0.10	0.16	0.15	0.17	0.22	0.17	0.23	0.13	0.05	0.16	0.03	0.22	0.07	0.21	0.14	0.13	0.16	0.03	0.23	0.14	0.06	
	MnO	0.03	0.00	0.00	0.00	0.07	0.07	0.01	0.02	0.12	0.00	0.07	0.06	0.03	0.05	0.02	0.00	0.00	0.00	0.03	0.01	0.00	0.12	0.03	0.03	
	FeO	1.25	1.28	1.24	1.27	1.17	1.42	1.21	1.24	1.24	1.35	1.33	1.20	1.23	1.26	1.24	1.37	1.32	1.32	1.25	1.40	1.26	1.17	1.42	1.28	0.07
	Total	100.00	99.99	100.00	100.02	100.01	100.01	99.99	99.99	99.99	99.99	100.00	100.02	100.01	100.00	99.99	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00
分析No.	元素	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	最小値	最大値	平均値	1σ	
K-Ah (PLDT-5)	Na ₂ O	4.07	4.47	4.39	3.44	4.16	4.13	3.72	4.13	4.44	3.97	4.38	4.53	4.49	4.37	4.48	4.68	4.33	4.42	4.35	4.37	3.44	4.68	4.27	0.29	
	MgO	0.43	0.52	0.42	0.51	0.47	0.43	0.40	0.42	0.40	0.44	0.46	0.43	0.58	0.54	0.49	0.62	0.44	0.46	0.40	0.45	0.40	0.62	0.47	0.06	
	Al ₂ O ₃	13.23	13.66	13.25	13.35	13.13	13.26	13.55	13.23	13.12	13.03	13.31	13.04	13.92	13.60	13.12	13.68	13.24	13.13	13.14	13.10	13.03	13.92	13.30	0.25	
	SiO ₂	74.29	73.09	73.98	74.56	74.34	74.09	74.36	74.41	74.28	74.53	73.87	73.88	71.92	72.97	74.13	72.30	73.98	74.09	74.38	73.92	71.92	74.56	73.87	0.73	
	P ₂ O ₅	0.02	0.02	0.03	0.06	0.02	0.10	0.00	0.08	0.00	0.08	0.00	0.01	0.08	0.07	0.16	0.04	0.07	0.05	0.05	0.11	0.00	0.16	0.05	0.04	
	K ₂ O	2.87	2.57	2.82	2.88	2.81	2.84	2.81	2.86	2.74	2.93	2.78	2.81	2.51	2.69	2.76	2.55	2.80	2.82	2.82	2.82	2.51	2.93	2.77	0.11	
	CaO	2.00	2.25	2.03	1.99	1.99	2.04	2.06	1.99	1.94	1.99	1.94	1.98	2.58	2.36	1.77	2.60	2.04	2.01	1.89	2.05	1.77	2.60	2.08	0.21	
	TiO ₂	0.55	0.67	0.55	0.59	0.54	0.58	0.55	0.46	0.54	0.54	0.66	0.56	0.70	0.65	0.60	0.61	0.57	0.57	0.45	0.55	0.45	0.70	0.57	0.06	
	MnO	0.06	0.07	0.09	0.07	0.00	0.12	0.09	0.06	0.13	0.08	0.04	0.09	0.12	0.03	0.12	0.13	0.13	0.13	0.10	0.06	0.12	0.13	0.09	0.04	
	FeO	2.48	2.68	2.46	2.53	2.53	2.41	2.46	2.34	2.41	2.41	2.41	2.56	2.66	3.11	2.71	2.36	2.80	2.41	2.38	2.46	2.51	2.34	3.11	2.53	0.18
	Total	100.00	100.00	100.02	99.98	99.99	100.00	100.00	100.00	99.98	100.00	100.00	100.00	99.99	100.01	99.99	100.01	100.01	100.01	100.01	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

ガラスを測定開始時に測定した。また、鬼界アカホヤテフラ（K-Ah：7.3 ka、PLDT-5）も同時に測定した。

3) 結果

表1～3に分析試料及びテフラ試料の特徴を、表4に火山ガラスのSEM-EDS分析による化学組成を示した。また、図2～4に主な元素分布図を示した。以下に、テフラの特徴について述べる。

[分析No.1]

試料は、褐色（7.5YR 4/2）のシルト質テフラである（表1）。篩分けでは4φの篩残渣が多く、重液分離では軽鉱物が多く、重鉱物が少ない（表2）。

軽鉱物では火山ガラスが99.2%を占め、バブル型平板状（b1）が78.6%を、次いでバブル型Y字状（b2）が21.4%を占める（表3）。また、重鉱物では、斜方輝石（opx）が40.8%と多く、単斜輝石（cpx）が28.4%、磁鉄鉱（mg）が24.4%である（表3）。

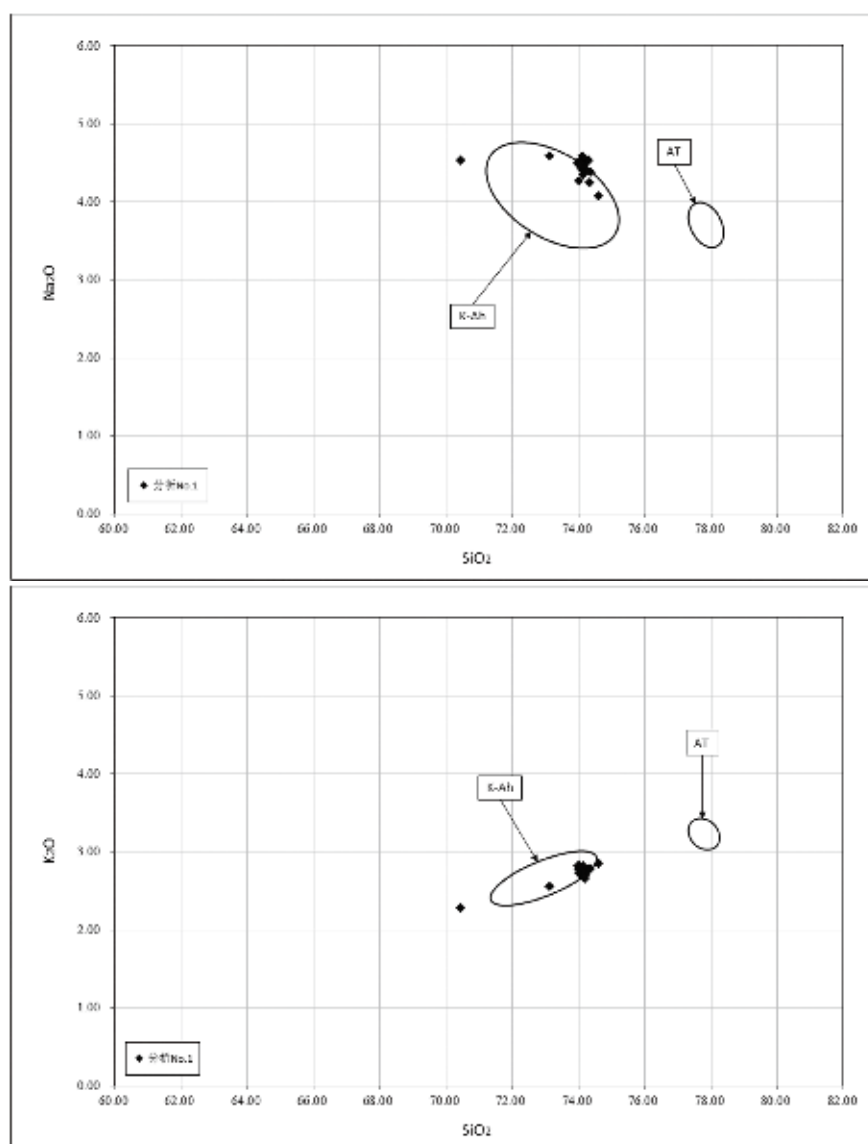


図2 火山ガラスのSiO₂-Na₂O分布図とSiO₂-K₂O分布図

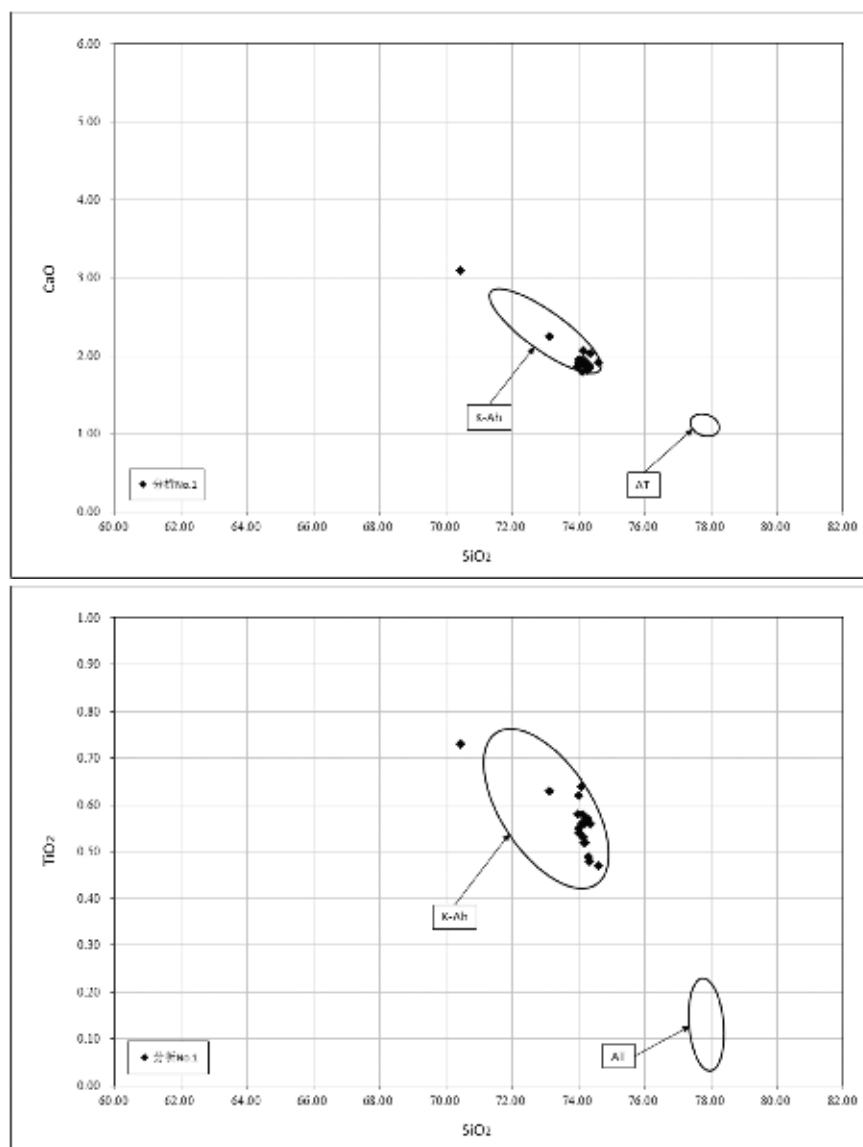


図3 火山ガラスのSiO₂-CaO分布図とSiO₂-TiO₂分布図

火山ガラスの化学組成は、酸化ケイ素（SiO₂）が平均73.94%、酸化アルミニウム（Al₂O₃）が平均13.23%、酸化ナトリウム（Na₂O）が平均4.44%、酸化カリウム（K₂O）が平均2.72%、酸化鉄（FeO）が平均2.52%などであった（表4）。

4) 考察

分析したテフラ（分析No.1）は、軽鉱物では火山ガラスが多く、バブル型ガラスを特徴的に多く含んでいた。重鉱物は斜方輝石（opx）と単斜輝石（cpx）からなる。

SEM-EDS分析では、SiO₂-Na₂O分布図とSiO₂-K₂O分布図（図2）、SiO₂-CaO分布図とSiO₂-TiO₂分布図（図3）、FeO-K₂O分布図とSiO₂-(K₂O+Na₂O)分布図（図4）のいずれにおいても、概ね鬼界アカホヤテフラ（K-Ah）の分布範囲にプロットされた。

以上の結果から、このテフラは、鬼界アカホヤテフラ（K-Ah：7.3 ka）と同定された。以下に、鬼界アカホヤテフラ（K-Ah）の特徴について記す。

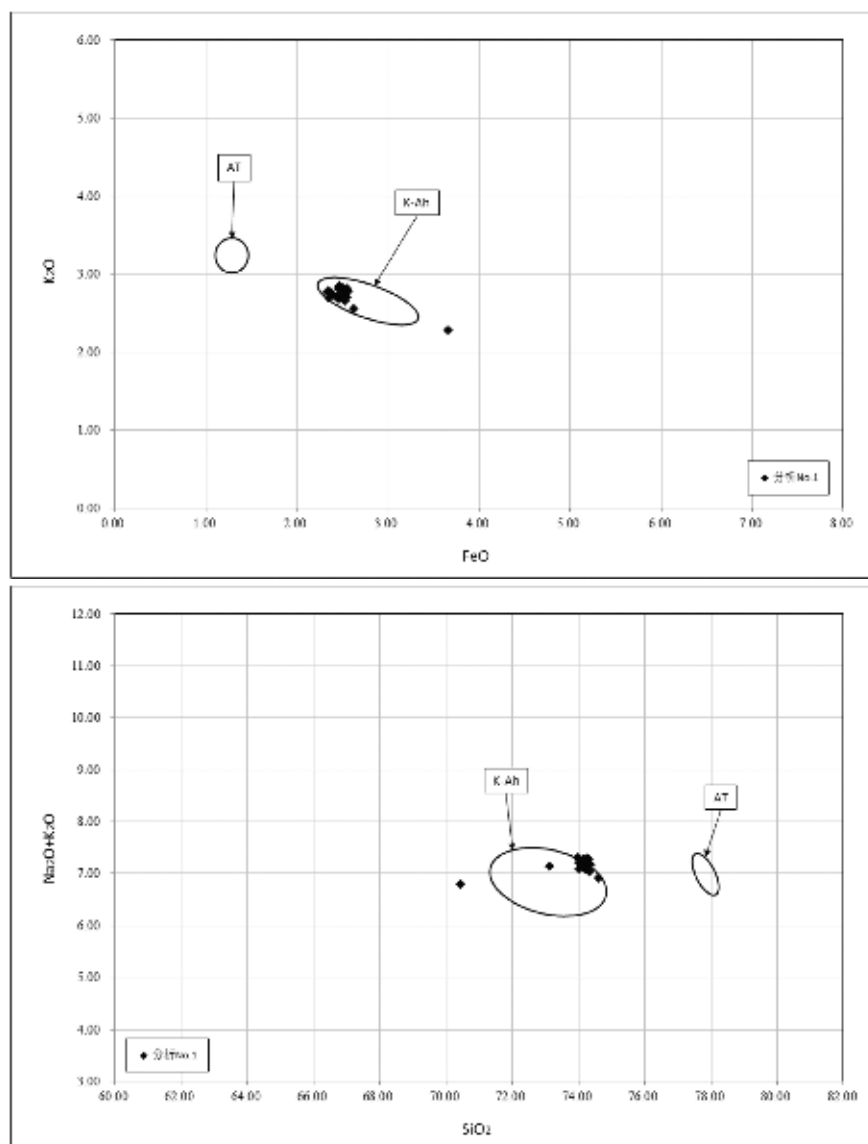


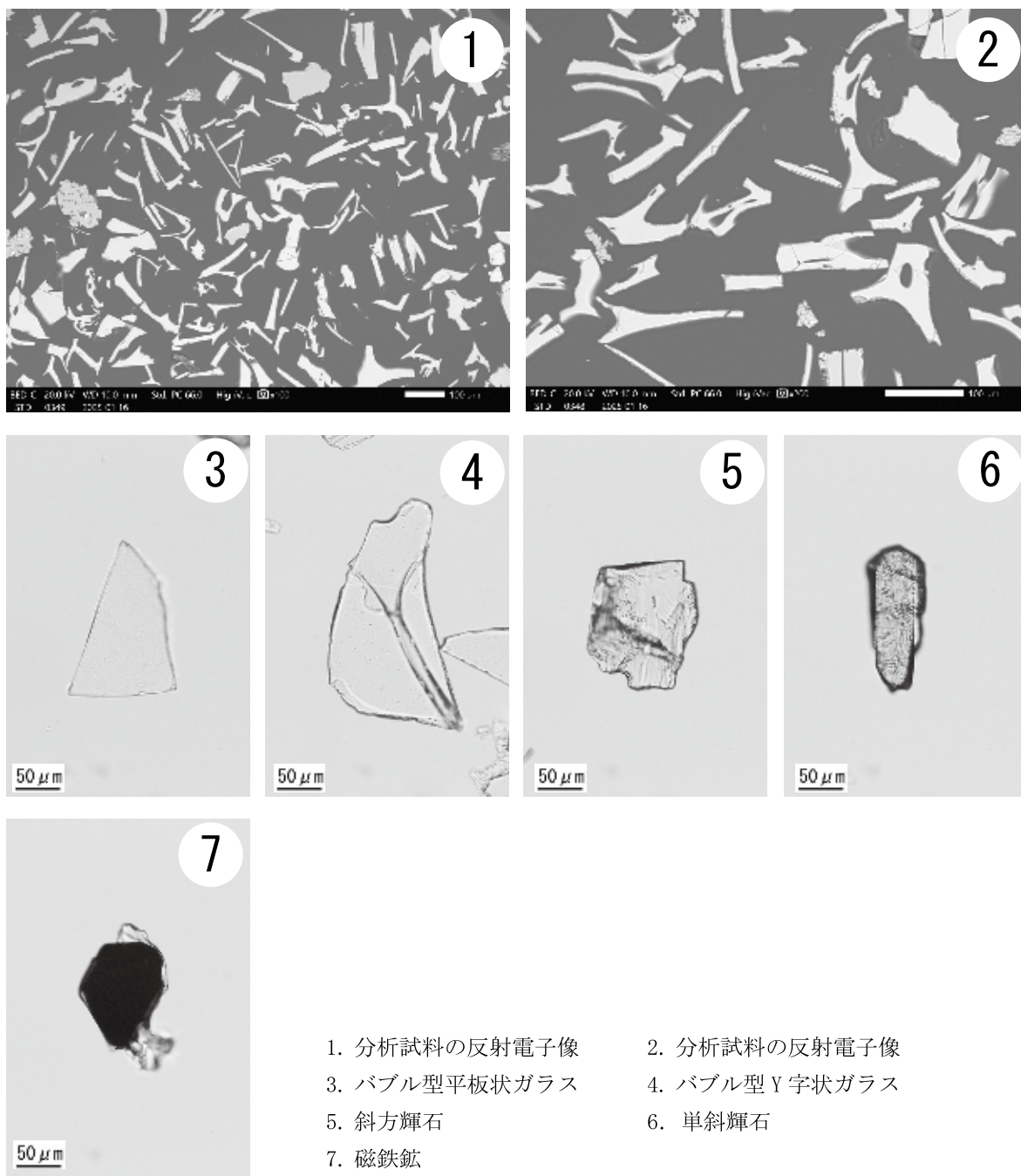
図4 火山ガラスのFeO-K₂O分布図とSiO₂-(Na₂O+K₂O)分布図

鬼界アカホヤテフラ (K-Ah) は、南九州鬼界カルデラから約7,300年前に噴出した降下軽石 (pfa)、火砕流堆積物 (pfl)、降下火山灰 (afa) である。このテフラは、輝石デイサイト質のガラス質テフラで、部層により大差なくほぼ均質である。バブル型の多い火山ガラスは、始良Tnテフラ (AT) のそれに比べると、薄手で淡褐色を帯びるものがあり、屈折率もかなり高く、広い範囲1.508-1.516をもつ。斜方輝石 (opx) の屈折率 (γ) が1.704-1.713である (町田・新井, 2003)。

(文責：鬼頭 剛・藤根 久)

引用文献

町田 洋・新井房夫 (2003) 新編火山灰アトラス, 336p, 東京大学出版会.



- | | |
|---------------|-----------------|
| 1. 分析試料の反射電子像 | 2. 分析試料の反射電子像 |
| 3. バブル型平板状ガラス | 4. バブル型 Y 字状ガラス |
| 5. 斜方輝石 | 6. 単斜輝石 |
| 7. 磁鉄鉱 | |

図5 分析試料の反射電子像と鉱物の顕微鏡写真

(2) 花粉分析

1) はじめに

東月光町調査地の中世遺構の基盤をなす堆積物中には、鬼界アカホヤテフラ (K-Ah) に対比される火山灰層を挟在していた (別項参照)。堆積状況から、一次堆積した火山灰層の可能性が高いものの、二次堆積の可能性も否めないことから、火山灰層テフラ層直下の堆積物を対象に花粉分析を実施し、生層序学的に検討した。

2) 試料

調査担当者により採取された不攪乱堆積物試料の断面写真、および試料の観察結果を模式柱状図として図6に示す。1層が中世の溝149埋土、3層～10層が中世遺構の基盤堆積物に相当する。下位層から試料の層相を以下に示す。

10層は斜交葉理をなす砂礫層からなり、上部は擾乱されている。9層は10層上面の凹凸を充填するように堆積する泥質砂～砂混じり泥からなる。6層は生物擾乱により塊状構造を示す腐植質泥からなる。擾乱により不明瞭となっているが、不連続な砂の葉理を挟在している。また、最上部には泥の薄層が積層する。5層は鬼界アカホヤテフラ (K-Ah) 火山灰層である。上位層準から鉛直方向に伸びる根成孔隙により、見かけ上はブロック状を呈しているが、子細にみると層状に堆積した後に擾乱されていることが確認される。4層は著しく擾乱された腐植質泥からなる。下位の6層に比較して、腐植含量が多く、土壤構造も確認される。3層は著しく擾乱された泥質砂からなる。1層は、5層までの堆積物掘削して構築された溝149を充填する、人為的に投入された砂、礫

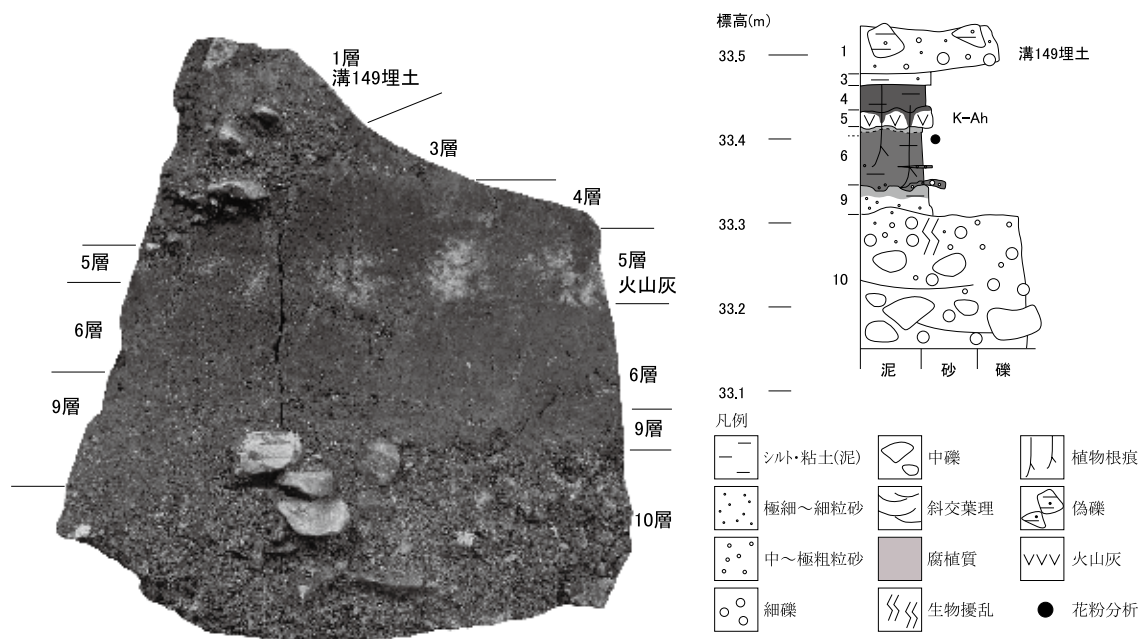


図6 試料写真および層状模式柱状図

泥質砂、とそのブロック土からなる。

花粉分析は、6層上部から採取した1点である。

3) 分析方法

試料(湿重量約3g)を遠沈管にとり、10%水酸化カリウム溶液を加え10分間湯煎する。水洗後、46%フッ化水素酸溶液を加え1時間放置する。水洗後、比重分離(比重2.1に調整した臭化亜鉛溶液を加え遠心分離)を行い、浮遊物を回収し水洗する。水洗後、酢酸処理を行い、続いてアセトリシス処理(無水酢酸9:濃硫酸1の割合の混酸を加え20分間湯煎)を行う。水洗後、残渣にグリセリンを滴下し保存用とする。プレパラート作成は、残渣を適量に希釈し、十分に攪拌した後マイクロピペットで取り、グリセリンで封入する。検鏡は、プレパラート全面を走査し、その間に産出する全ての種類について同定・計数する。

表5 花粉分析結果

4) 結果

花粉・胞子の分類群数は、樹木花粉26、草本花粉16、形態分類を含むシダ植物胞子2の、総計42である。これらの花粉・胞子の一覧表を表5に、分布図を図7に示した。分布図における樹木花粉の産出率は樹木花粉総数を基数とした百分率で、草本花粉と胞子の産出率は産出花粉胞子総数を基数とした百分率で示してある。図表においてハイフン(－)で結んだ分類群は、それらの分類群間の区別が困難なものを示す。また、バラ科やマメ科の花粉には樹木起源と草本起源の分類群があるが、各々に分けるのが困難なため、便宜的に草本花粉に一括して入れている。

テフラ層直下の6層から産出した花粉化石は保存状態が悪く、種類同定できないほど分解が進行しているものが約16%認められた。同定された花粉化石群集の構成比は、木

学名	和名	6層上部
樹木		
<i>Abies</i>	モミ属	1
<i>Pinus</i> (Unknown)	マツ属(亜属不明)	16
<i>Sciadopitys</i>	コウヤマキ属	33
<i>Cryptomeria</i>	スギ属	18
Taxaceae-Cephalotaxaceae-Cupressaceae	イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科	3
<i>Salix</i>	ヤナギ属	1
<i>Pterocarya</i>	サワグルミ属	3
<i>Juglans</i>	クルミ属	5
<i>Carpinus-Ostrya</i>	クマシデ属-アサダ属	23
<i>Corylus</i>	ハシバミ属	1
<i>Betula</i>	カバノキ属	1
<i>Alnus</i>	ハンノキ属	5
<i>Fagus japonica</i>	イヌブナ	1
<i>Fagus crenata</i>	ブナ	12
<i>Quercus</i> subgen. <i>Lepidobalanus</i>	コナラ属コナラ亜属	278
<i>Quercus</i> subgen. <i>Cyclobalanopsis</i>	コナラ属アカガシ亜属	4
<i>Ulmus-Zelkova</i>	ニレ属-ケヤキ属	18
<i>Celtis-Aphananthe</i>	エノキ属-ムクノキ属	68
<i>Cercidiphyllum</i>	カヅラ属	1
<i>Phellodendron</i>	キハダ属	1
<i>Ilex</i>	モチノキ属	2
<i>Acer</i>	カエデ属	10
<i>Aesculus</i>	トチノキ属	1
Araliaceae	ウコギ科	1
<i>Styrax</i>	エゴノキ属	1
<i>Fraxinus</i>	トネリコ属	4
草本		
Gramineae	イネ科	65
Cyperaceae	カヤツリグサ科	65
Iridaceae	アヤメ科	1
<i>Polygonum</i> sect. <i>Persicaria-Echinocaulon</i>	サナエタデ節-ウナギツカミ節	11
<i>Polygonum</i>	タデ属	1
Chenopodiaceae-Amaranthaceae	アカザ科-ヒユ科	2
<i>Thalictrum</i>	カラマツソウ属	1
Other Ranunculaceae	他のキンボウゲ科	1
Brassicaceae	アブラナ科	14
Rosaceae	バラ科	1
Leguminosae	マメ科	2
Apiaceae	セリ科	7
<i>Patrinia-Valeriana</i>	オミナエシ属-カノコソウ属	1
<i>Adenophora-Campanula</i>	ツリガネニンジン属-ホタルブクロ属	1
<i>Artemisia</i>	ヨモギ属	37
Tubuliflorae	キク亜科	16
Liguliflorae	タンポポ亜科	1
シダ植物		
monolete type spore	単条溝胞子	62
trilete type spore	三条溝胞子	5
Arboreal pollen	木本花粉	512
NonArboreal pollen	草本花粉	227
Pteridophyta	シダ類胞子	67
Total Pollen & Spores	合計	806
unknown	不明花粉	12
poorly preserved pollen	同定不能花粉	152

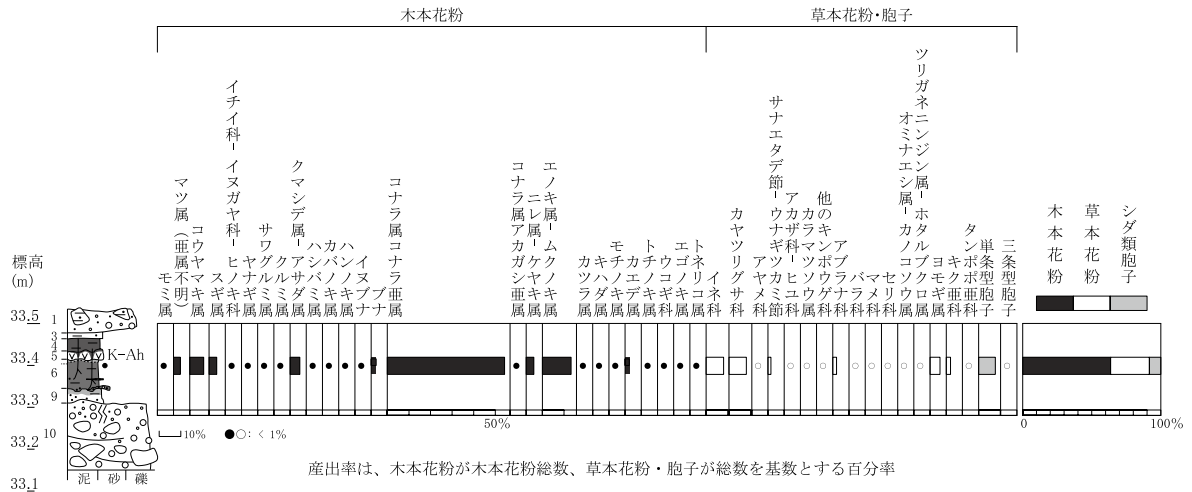


図7 花粉分布図

本花粉が64%、草本花粉28%、シダ類胞子が8%であった。樹木花粉ではコナラ属コナラ亜属が優占し、次いでエノキ属－ムクノキ属が比較的多産し、ニレ属－ケヤキ属、クマシデ属－アサダ属などを伴う。草本花粉ではイネ科の産出が目立つ。

5) 考察

鬼界アカホヤテフラ (K-Ah) 層直下の6層上部から産出した花粉化石は保存状態が悪く、分解が進行していた。一般的に、花粉は湿乾を繰り返す環境に弱く、酸化的環境下で堆積すると紫外線や土壌バクテリアなどによって分解され、消失する。6層は腐植質泥からなり、新鮮な有機物遺体を確認されないことから、堆積時に乾湿を繰り返す湿地のような堆積環境が推定される。堆積物中に取り込まれた花粉化石は、水位が低下した時期に酸化的環境に晒され、分解が進行したと考えられ、消失した花粉化石の存在も示唆される。したがって、得られた花粉化石群集は多少偏った組成になっている可能性があることを考慮しておく必要がある。

6層上部の花粉化石群集は、木本花粉が高率を占め、その中で落葉広葉樹のコナラ亜属が優占すること、随伴する種類の多くが河畔林要素を含む落葉広葉樹からなり、特にエノキ属－ムクノキ属の産出が目立つことが特徴である。また低率ながら常緑広葉樹のアカガシ亜属が伴出することも特徴である。

京都盆地における後氷期以降の花粉化石群集変遷については、高原 (1998・2011・2015)・深泥池団体研究グループ (1976) などの調査事例が存在する。これらの成果に基づくと、晩氷期から後氷期初期の約1万5千年～9,000年前頃にかけては落葉広葉樹のコナラ亜属が優勢であるが、後氷期前半の9,000年前以降になると、コナラ亜属が減少し、エノキ、ムクノキ、ケヤキなどの暖温帯性落葉広葉樹が優勢となり、約6,000年前頃まで継続する。この期間には常緑広葉樹のアカガシ亜属も漸増傾向を示すが、卓越するようになるのは約7,300年前の鬼界アカホヤテフラ降灰以降である。なお、今回の調査地周辺では、近隣の平安京右京三条一坊六・七町跡において、縄文時代早期後葉の8,300年～8,100年前の暦年代値を示す層準において、コナラ属コナラ亜属が多産し、エノキ

属－ムクノキ属、ニレ属－ケヤキ属などを伴う落葉広葉樹主体の組成が得られている（パリノ・サーヴェイ株式会社，2013）。

以上のことから、今回の6層上部の花粉化石群集は、後氷期前半の9,000年～6,000年前頃のコナラ亜属とエノキ、ムクノキ、ケヤキなどの暖温帯性落葉広葉樹が優勢となる層準に生層序学的に対比される。当時の調査地は、段丘化した扇状地面上に位置しており、洪水堆積物の堆積速度がかなり遅いとともに、地表面付近において土壌化が進行する領域が広がっていたことが推定されている（森・辻,2021）。このことと6層の層相から、6層の花粉化石群集は長期間の植生に由来するものであることが認識される。したがって、6層直上の鬼界アカホヤテフラ層は、土壌化が進行する乾湿を繰り返す湿地に一次堆積したテフラの可能性が高いと判断される。

6層形成期の調査地点近辺には、イネ科・カヤツリグサ科などの草本類が生育し、その周囲の高燥な場所を中心にナラ類や、エノキ属－ムクノキ属などの暖温帯性の落葉広葉樹が優勢な植生が成立していたことが推定される。

（文責：辻本裕也）

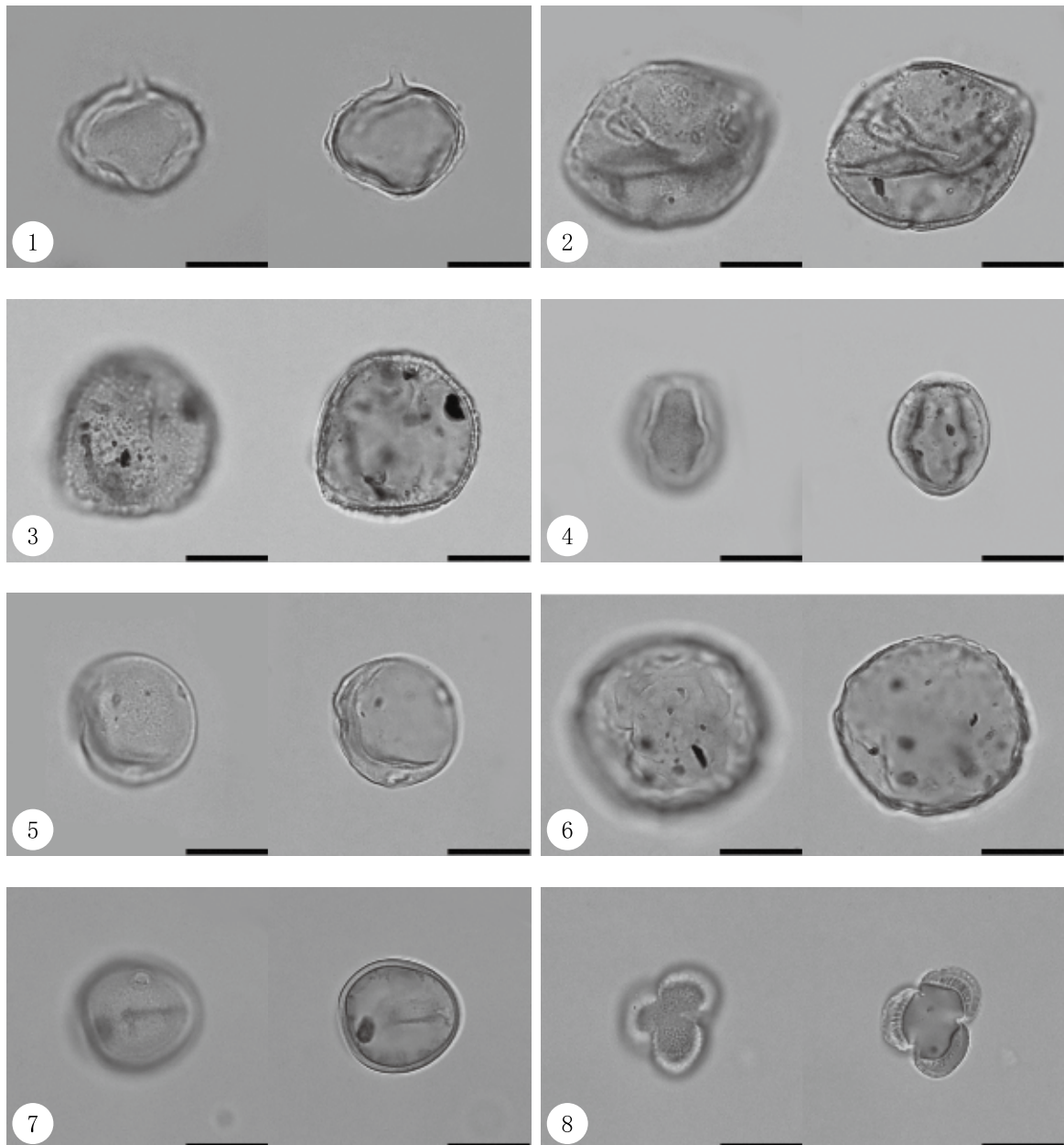
引用文献

深泥池団体研究グループ（1976）深泥池の研究（1）．地球科学,30,1,15-38.

森 将志・辻 康男（2021）1．花粉分析．京都市埋蔵文化財研究所編「平安京右京三条一坊六・七町跡、壬生遺跡」京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2020-10：54-69，公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所．

パリノ・サーヴェイ株式会社（2013）自然科学分析．京都市埋蔵文化財研究所編「平安京右京三条一坊六・七町跡－西三条第（百花亭）跡－」京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2011-9：133-171，財団法人京都市埋蔵文化財研究所．

高原 光（2011）日本列島とその周辺域における最終間氷期以降の植生史．湯本貴和編「日本列島の三万五千年－人と自然の環境史 第6巻 環境史をとらえる技法」：15-44，文一総合出版．



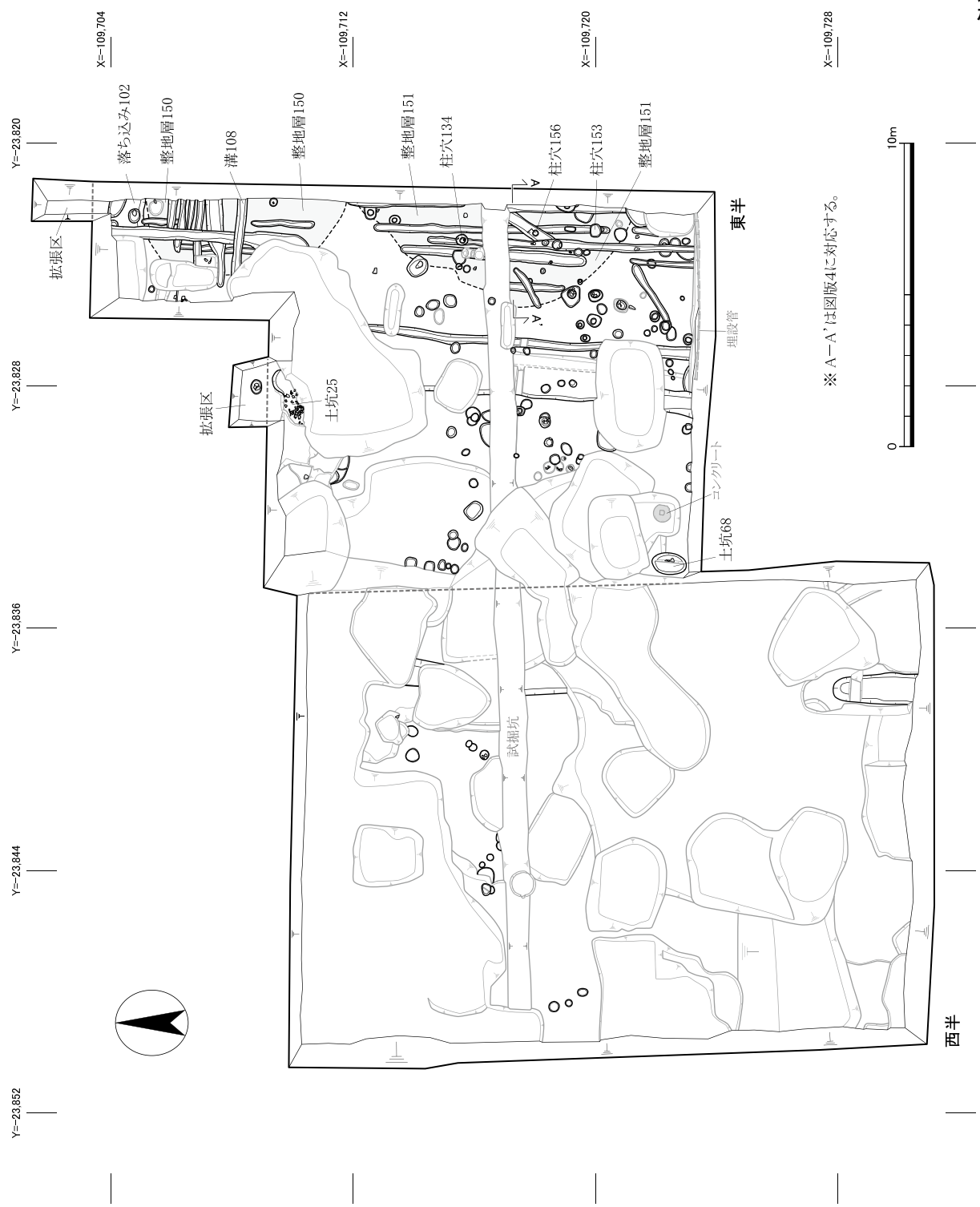
スケール：20 μ

1. スギ属, 2. プナ属, 3. コナラ亜属, 4. アカガシ亜属, 5. エノキ属-ムクノキ属,
6. ニレ属-ケヤキ属, 7. イネ科, 8. ヨモギ属

図8 花粉化石

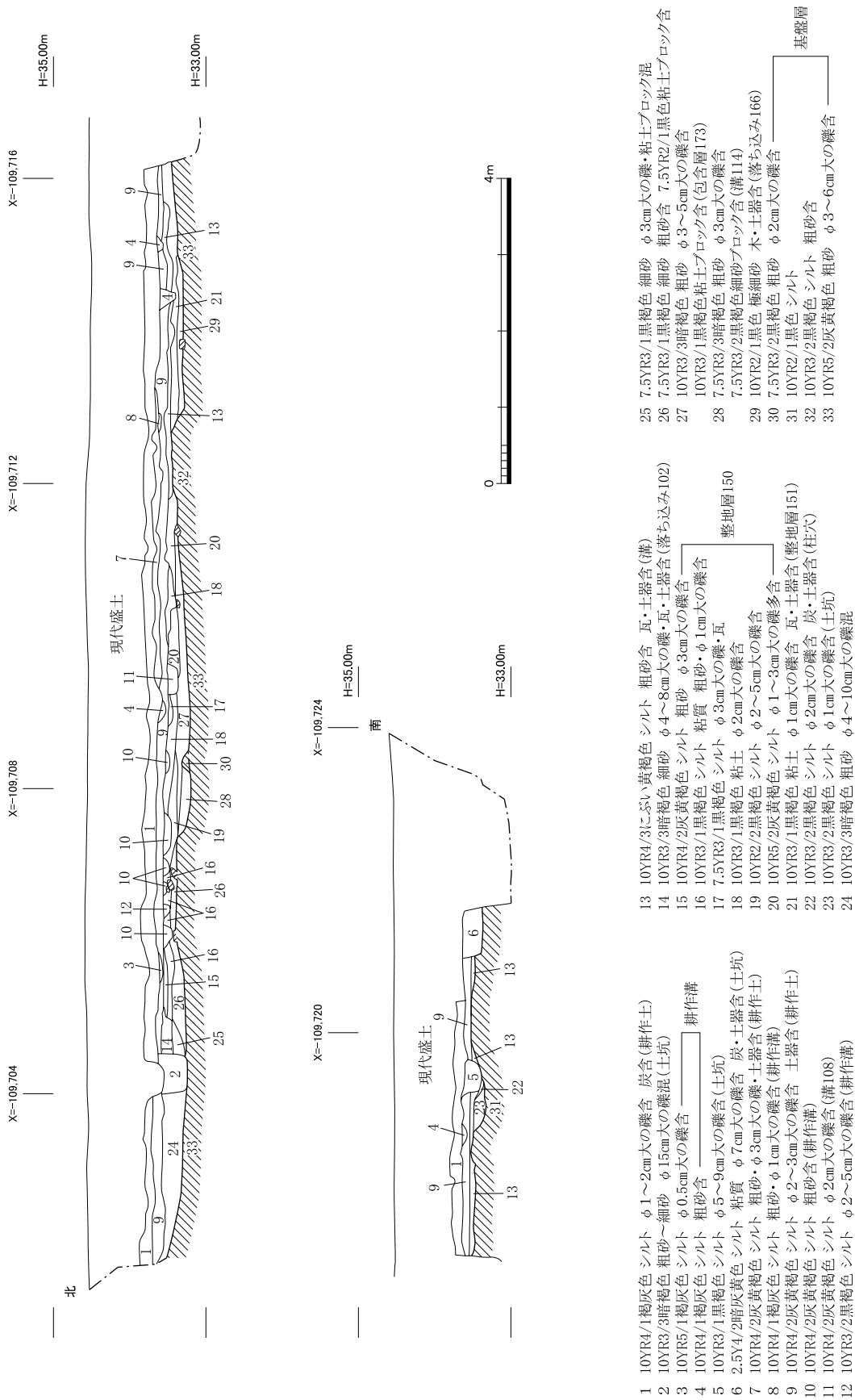
図 版

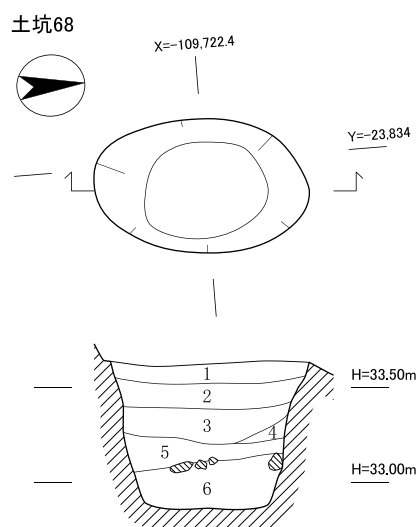
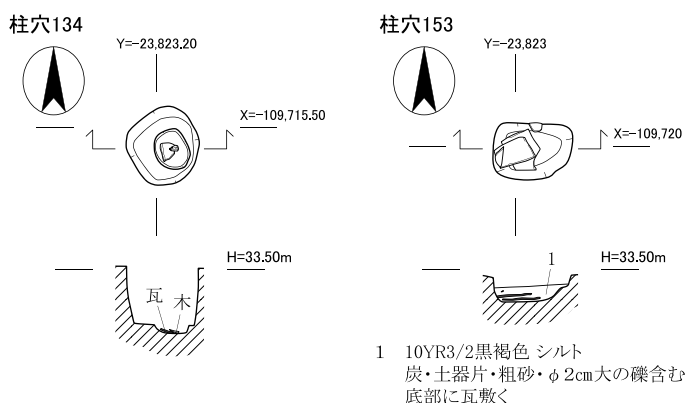
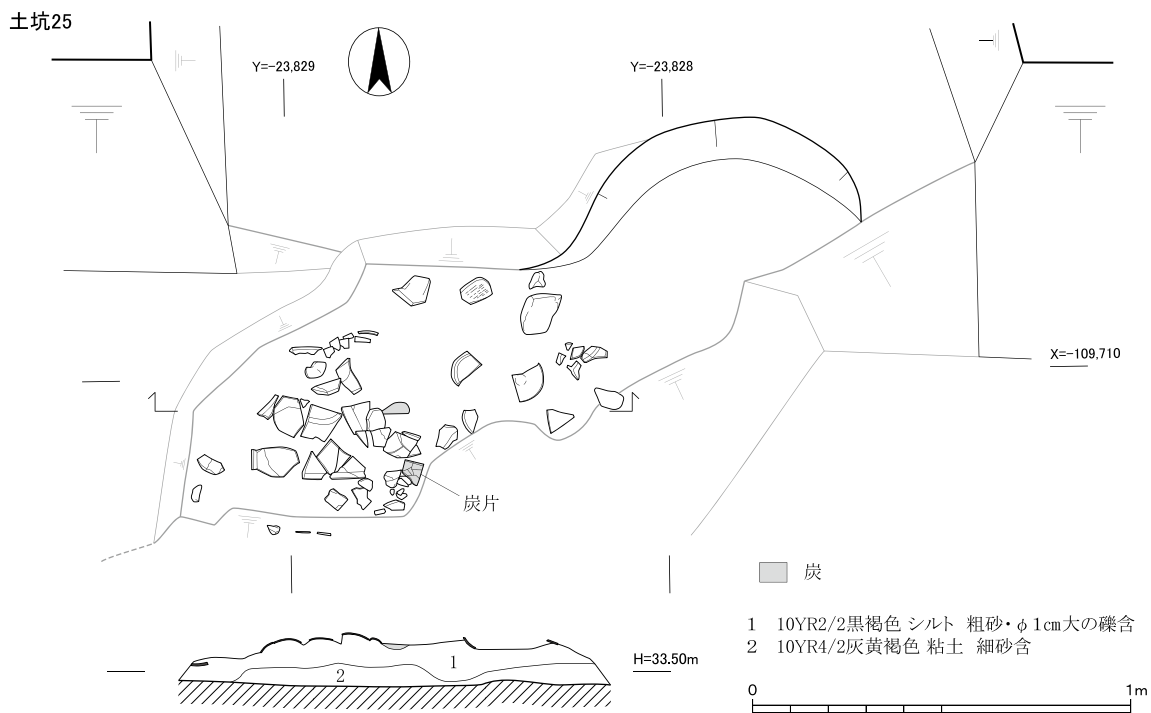
調査区平面図（1：200）



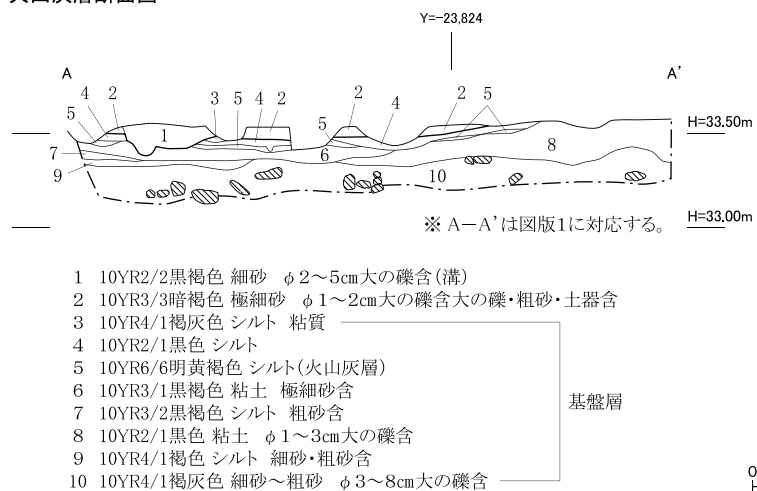
図版1
遺構

調査区東壁断面図 (1 : 80)



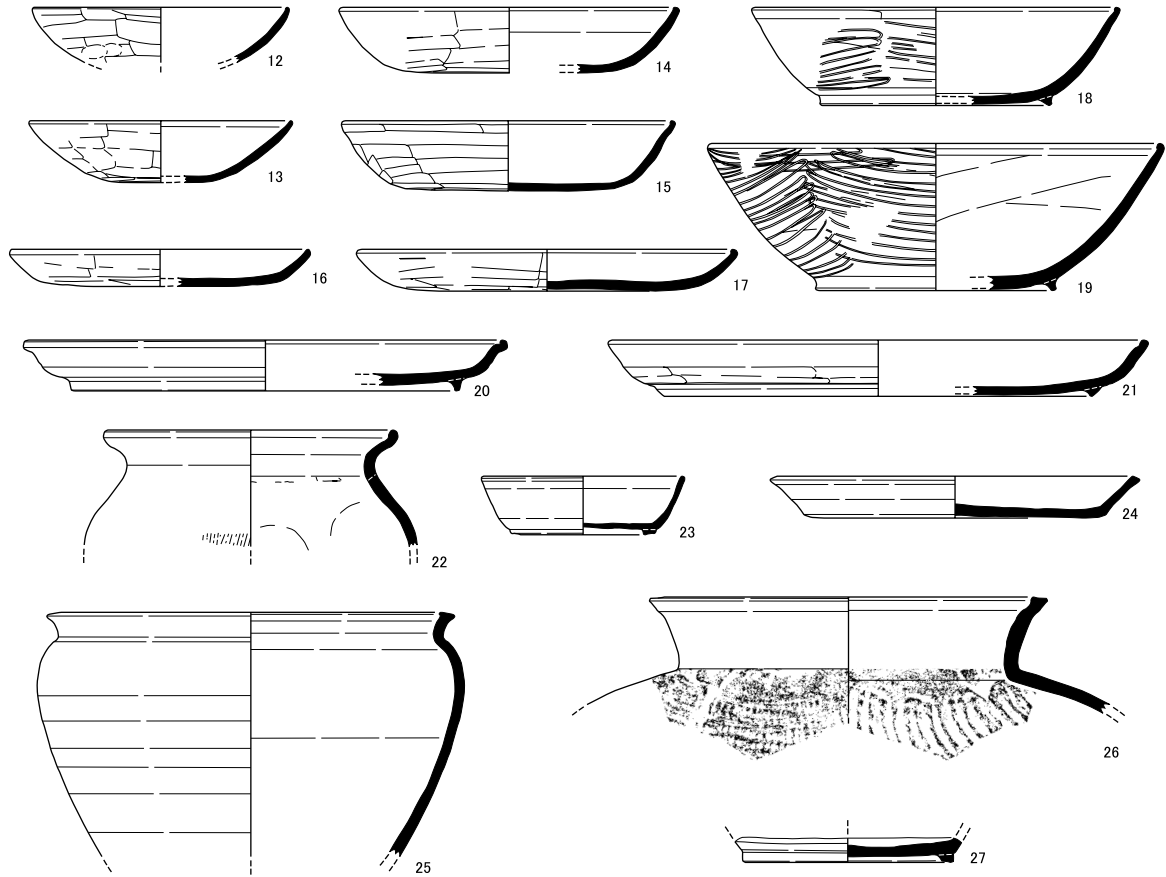


火山灰層断面図

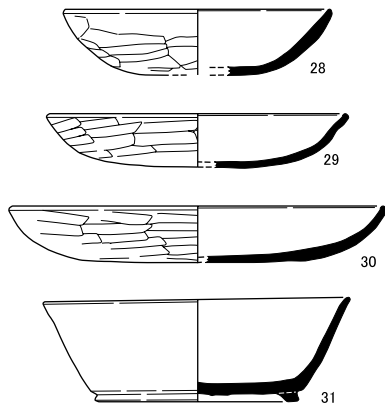


土坑25実測図 (1:20)、柱穴134・柱穴153・土坑68実測図 (1:40)、火山灰層断面図 (1:40)

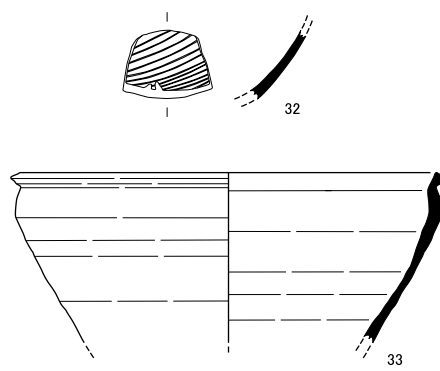
土坑25



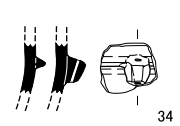
整地層151



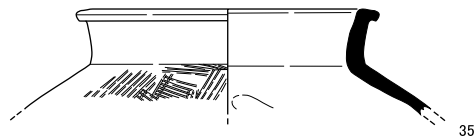
整地層150



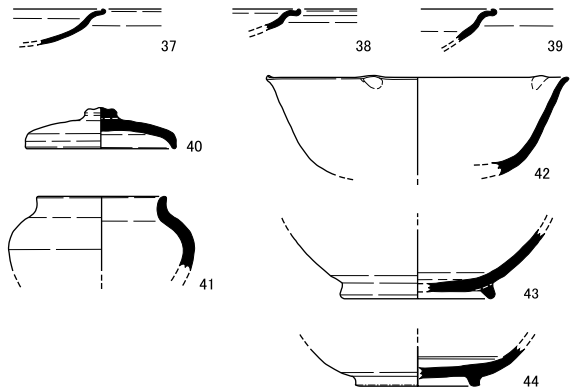
溝108



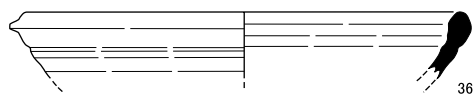
柱穴134

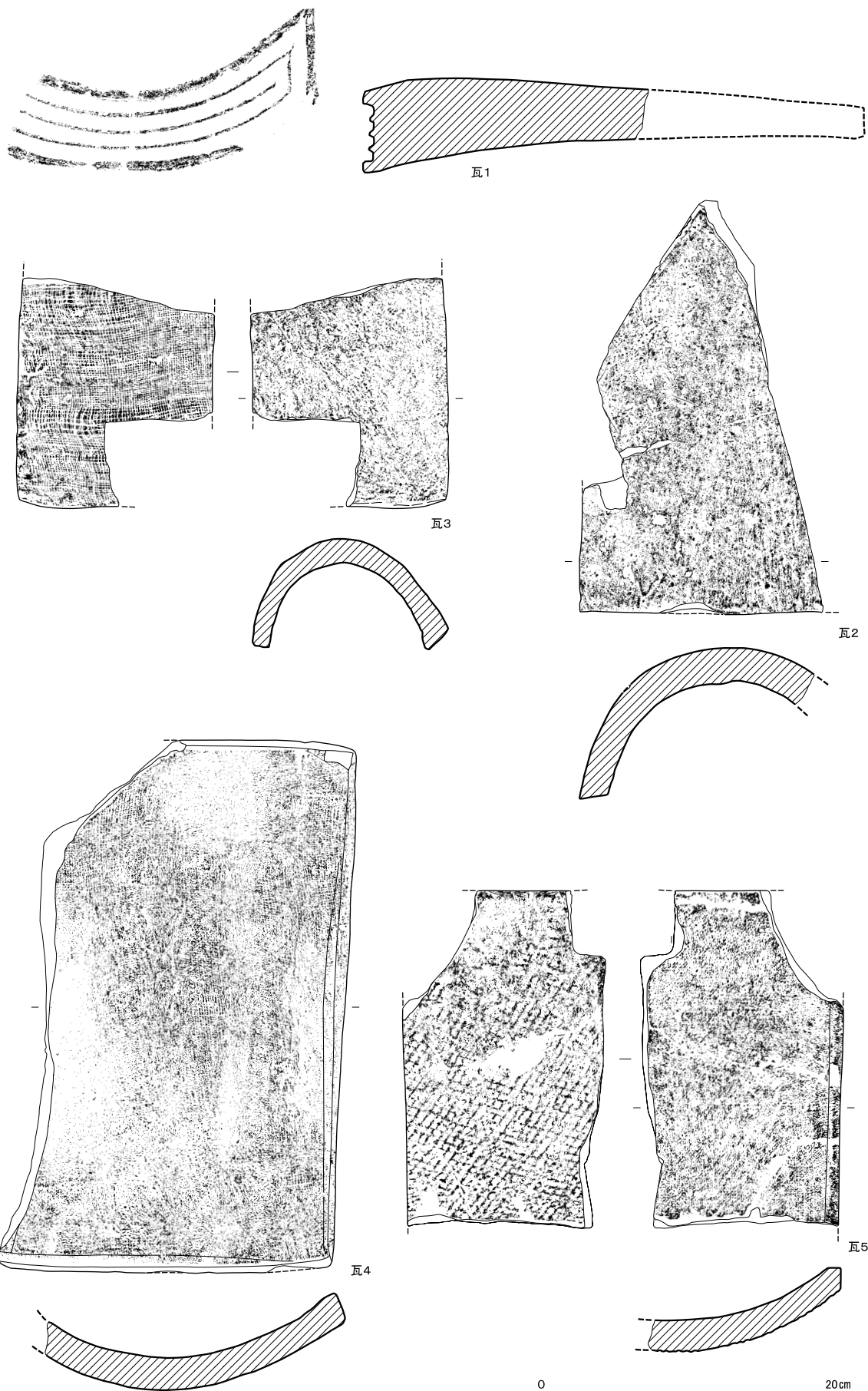


土坑68



落ち込み102





軒平瓦・丸瓦・平瓦拓影及び実測図（1：4）



1 調査区西半全景（東から）



2 調査区東半全景（西から）



1 溝114及び包含層173（北西から）



2 溝114完掘状況（北西から）



3 溝114北肩部土器出土状況（北東から）



1 土坑25土器出土状況（西から）



2 土坑25断面（南から）



1 整地層151軒平瓦出土状況（南西から）



2 柱穴134土器出土状況（東から）



3 柱穴153検出状況（南から）



4 柱穴153文字瓦出土状況（南から）



1 基盤層傾斜状況（北から）



2 火山灰層検出状況（北西から）



3 火山灰層断面（北から）

報 告 書 抄 録

ふ り が な	へいあんきょううきょうさんじょういちぼうじゅういっちょうあと・みぶいせき							
書 名	平安京右京三条一坊十一町跡・壬生遺跡							
シ リ ー ズ 名	京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告							
シリーズ番号	2 0 2 4 - 7							
編 著 者 名	西田倫子							
編 集 機 関	公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所							
所 在 地	京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1							
発 行 所	公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所							
発 行 年 月 日	西暦2025年 7 月31日							
ふ り が な 所収遺跡名	ふ り が な 所 在 地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
へいあんきょうあと 平安京跡 み ぶ いせき 壬生遺跡	きょうとし なかぎょうく 京都市中京区 にしのかぎょうひがしげっこうちょう 西ノ京東月光町 22－13	26100	1 462	35度 00分 39秒	135度 44分 20秒	2024年 9 月 24日～2024 年11月15日	562㎡	開発計画
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
平安京跡 壬生遺跡	都城跡	古墳時代	溝、落ち込み、遺物包含層		土師器、須恵器、製塩土器		基盤層で火山灰層を確認した。 古墳時代中期の土器を含む溝・落ち込み、古墳時代後期の遺物を含む包含層を確認した。 平安時代の土坑から平安時代初頭の土器がまとまって出土した。	
	散布地	平安時代	柱穴、土坑、整地層、落ち込み		土師器、黒色土器、須恵器、緑釉陶器、灰釉陶器、輸入陶磁器、瓦類、石製品			
		江戸時代	溝		土師器、施釉陶器、染付、瓦類			

京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2024-7

平安京右京三条一坊十一町跡・壬生遺跡

発行日 2025年7月31日

編集
発行 公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

住 所 京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1
〒602-8435 TEL 075-415-0521
<http://www.kyoto-arc.or.jp/>

印 刷 三星商事印刷株式会社

住 所 京都市上京区七本松通下長者町下る三番町273番
〒602-8358 TEL 075-467-5151